

北海道大学

多職種連携による死因究明等の推進と総合的人材育成プロジェクト

「令和6年度年次報告集」

令和7年3月

北海道大学大学院医学研究院

死因究明教育研究センター

目次

I	センター長のあいさつ	・ ・ ・ ・ p 1
II	死因究明教育研究センターの業績概要	・ ・ ・ ・ p 3
III	死因究明教育研究センター教育研究概要と実績	・ ・ ・ ・ p 9
IV	令和6年度 各部門別実務実績・研究業績	・ ・ ・ ・ p 12
	法医学・中毒学部門	・ ・ ・ ・ p 13
	病理学・医療安全管理部門	・ ・ ・ ・ p 16
	オートプシー・イメージング部門	・ ・ ・ ・ p 35
	法歯学部門	・ ・ ・ ・ p 42
V	参考資料	・ ・ ・ ・ p 51

Center for Cause of Death Investigation Projects

令和6年度

死因究明教育研究センター事業報告

I. センター 長のあいさつ

全国の死亡者数は年々増加し、現在は年間約 150 万人、異状死は年間約 20 万件に達しております。年間死者数は 2030 年までに 30 万人増加するとの報告があり、死因究明に求められる期待は大きくなっております。しかし、我が国の死因究明制度は諸外国に比べ十分なものとは言い難い状況にあり、事故や犯罪の見逃し防止の観点からも死因究明体制の強化が強く求められております。

平成 24 年 6 月に「死因究明等の推進に関する法律」が議員立法により制定され、増加する異状死の死因究明や大規模災害の発生に伴う死亡者の死因究明と身元確認の重要性が認識されました。薬物及び毒物に係る検査あるいは死後画像診断その他死因究明の科学的な調査の活用は重点施策として計画され、平成 26 年 6 月に「死因究明等推進計画」が閣議決定されました。この計画によって死因究明等が重要な公益性を有するものとして位置付けられ、死因究明等に係る実施体制の強化と死因究明等に係る人材の育成及び資質の向上にむけた取り組みが実施されました。さらには、令和元年 6 月に死因究明等推進基本法（令和 2 年 4 月 1 日施行）が成立し、死因究明等（死因究明及び身元確認）に関する施策を総合的かつ計画的に推進することとなりました。具体的には、1）死因究明により得られた知見が公衆衛生の向上及び増進に資する情報として広く活用される、2）災害、事故、犯罪、虐待等が発生した場合における死因究明がその被害の拡大及び再発の防止等の実施に寄与するよう、国・地方公共団体・大学・医療機関・関係各機関と相互に連携を図り協力しながら実施することが求められました。

このような状況を踏まえて、本研究院では平成 28 年 4 月に死因究明教育研究センター Center for Cause of Death Investigation を設置しました。令和 3 年 5 月からは、法医学/中毒学部門・病理学/医療安全管理部門・オートプシーイメージング部門・法歯学部門に再編し、死因究明・医療安全・身元確認等に係る教育・研究拠点として活動を展開しております。そこでは、学内他学部はもとより、北海道大学病院、全国医療機関、道内外の大学、北海道警察、北海道保健福祉部、科学捜査研究所、北海道医師会、北海道歯科医師会、地域基幹病院、海上保安庁など学内外の多職種と積極的に連携し、死因究明等の推進と総合的人材の育成に当たっております。

皆さまには本センターの活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

死因究明教育研究センター センター長 畠山 鎮次

Ⅱ．死因究明教育研究センターの事業概要

組織

死因究明教育研究センター運営委員会

医学研究院

生化学分野 医化学教室

腫瘍病理学教室

法医学教室

画像診断学教室

呼吸器内科学教室

心臓血管外科学教室

歯学研究院口腔機能学分野 小児・障害者歯科学教室

北海道大学病院 医療安全管理部

小児科学教室

．．．

死因究明教育研究センター教員（兼務を含む）

法医学・中毒学部門

病理学・医療安全管理部門

オートプシー・イメージング部門

法歯学部門

畠山鎮次（センター長）

田中伸哉（副センター長）

的場光太郎

工藤與亮

今野 哲

若狭 哲

八若保孝

南須原康行

真部 淳

的場光太郎

神 繁樹

木内隆之

田中伸哉

南須原康行

田中 敏

根岸 淳

武田充人

藤原 晶

佐々木理

工藤與亮

坂本圭太

原田太以佑

池辺洋平

八若保孝

箕輪和行

竹内明子

事業概要

- I. 死因究明教育研究センターを設置し、複数の部局が連携して学部・大学院教育の充実化を図り、死因究明、身元確認等に係る適切な判断・対応を担う人材の育成を行う。
- II. 教育プログラムや奨学金を活用した教育を行うことで、将来的に法医学・病理学専門家となりうる人材を育成する。

事業の取組内容

全体計画

本事業は、北海道の中核的役割を担い、死因究明等の推進体制を強化するとともに、北海道大学が総合大学である強みを生かして幅広い分野の医療系人材に対して法医学の知識の普及・向上を実現する。さらに、医療関係領域のみならず、行政職、法曹関係者に対する法医学教育（研修会・講演会）の実施や連携体制の構築を図り、法医学的諸問題に対処する人材育成を行い、社会にイノベーションをもたらす指導的・中核的人材を輩出することを目指すことで、本学第3期中期目標期間の戦略③「国際社会の発展に寄与する指導的・中核的人材の育成」を実現する。

また近年、死因究明に対する社会からのニーズが高まり、複雑多様化する死因究明等の実務に対応する多分野のハイレベルな医療系人材の育成が求められている。さらに、医療関係領域のみならず、行政職、法曹関係者に対する法医学教育の実施や連携体制の構築を図り、法医学的諸問題に対処する人材も求められている。

これらのことから、本学では死因究明教育研究センターを設置し複数の部局が連携し、学部教育や大学院教育などの充実化を図り、死因究明を推進するため、法医学解剖や病理解剖、死後画像診断、薬毒物検査、歯科所見による身元確認等を担う人材を育成し、将来の死因究明にかかる専門家の育成につなげる。また、学内の連携に加えて、学外の専門家や北海道保健福祉部、北海道医師会、北海道歯科医師会、地域基幹病院、北海道警察・科学捜査研究所、第一管区海上保安本部、検察庁等学外の関係機関と北海道死因究明推進協議会などにおいて積極的に連携を図る。さらに、死後画像診断を活用した課題研究やディスカッションを取り入れた、アクティブ・ラーニング授業科目なども提供するなど、国際社会において死因究明の発展に寄与する指導的・中核的人材を育成してゆく。

事業計画（令和 6 年度）

- （１）異状死の死因究明に係る法医解剖の実施
- （２）死後画像診断を利用した死体検案等の実施
- （３）病院内突然死等の死因究明・医療事故調査における死後画像診断、法医・病理解剖の実施
- （４）異状死や身元不明遺体に対する歯科的所見による身元確認
- （５）死因究明・死体検案・死後画像診断・法歯学等のセミナー、研修会、講演会の開催
- （６）教育プログラム等の実施による死因究明等を担う人材育成
- （７）各研究科等で得られた法医学のデータを集積しデータベースの構築
- （８）アクティブ・ラーニング授業科目の実施
- （９）薬毒物鑑定の実施

全体概要

【特記される取り組みおよびその成果・効果】

- 平成 28 年 4 月に既設のオートプシー・イメージングセンターを発展的に改組し、その機能を維持かつ融合しつつ、死因究明等に関する教育プログラム等を開発・実施している。平成 30 年度は法医学部門・臨床法医学部門に大学院生 3 名、United Arab Emirates 大学から特別聴講学生が 1 名（研究期間 2 週間）、海上保安庁研修生 1 名（研修期間 6 カ月）、病理学部門に大学院生 2 名（計 5 名）、オートプシー・イメージング部門に大学院生 3 名が研究を開始し、医療関係者以外の学生、社会人を対象として法医学の知識向上を図っている。平成 31 年度（令和元年度）は法医学部門・臨床法医学部門に大学院生 1 名、Otago Christchurch 大学から特別聴講学生 1 名（研究期間 4 週間）、海上保安庁研修生 1 名（研修期間 6 カ月）が研究実務に携わった。令和 2 年度は海上保安庁研修生 1 名（研修期間 6 カ月）、令和 3 年度は法医学・中毒学部門に大学院生 2 名、海上保安庁研修生 1 名（研修期間 6 カ月）、令和 4 年度は法医学・中毒学部門に大学院生 2 名、海上保安庁研修生 2 名（研修期間 6 カ月）が研究実務に携わった。令和 5 年度は海上保安庁研修生 1 名（研修期間 6 カ月）が研究実務に携わった。

なお、本センターは、法医学・中毒学部門、病理学部門・医療安全管理部門、オートプシー・イメージング部門、法歯学部門の計 4 部門で構成され、各部門に教員（専任 4 名、兼任 13 名）を配置し事業を推進している。

- 死因究明に係る現状認識の深化に資する講義および本学における取組およびその成果を発表するため、医学部生、大学院生、警察医、警察職員、児童相談所職員他を対象とした講演会を 5 回（10 月、11 月、12 月）開催した。
- オートプシー・イメージング部門が中心となり、医療安全管理部門が協力し、学外医療機関からの死亡時画像診断の読影業務を平成 30 年 2 月 1 日から正式に開始した。

- 薬物検査の研究成果を活用し、新たに微量分析装置（GC-MS/MS および LC-MS/MS）の整備を行い、医療機関および医療機関外の死亡事例に対し、薬物分析を実施することにより、薬物中毒の見逃し防止などの成果を上げている。
- オートプシー・イメージング部門では専用画像解析用ワークステーションを配備し、従来から行われている診断に加え、計測等による客観的指標の提示が可能となった。又、画像アーカイブズによる画像データベースが作成可能であり、人材育成に活用を開始している。
- 病理学部門ではバーチャルスライドの活用を通じて画像アーカイブズを作成し、専門家として指導を行うとともに学習教材並びに継続的な教育資材として活用している。

部門概要

法医学・中毒学部門

法医学・中毒学部門は、事業計画の（１）（２）（３）（４）（５）（６）（７）（８）（９）を担当する。実務としての院外死亡例に対する死体検案並びに解剖検査（司法解剖・承諾解剖・調査法解剖）・死後画像診断・薬毒物検査等を担当し、将来の死因究明に係る専門家の育成につながる、研究・教育システムの開発とそれの実施を行う。また、センター内の他部門と連携し、院内死亡に対する死因究明への取り組みに参加するとともに、北海道大学病院医療安全管理部との連携を図り、新たな医療安全システムの確立に向けた取り組みを推進する。病院医師研修のためのトレーニングプログラム（CAST）にも参加し、臨床医の研修、研究をサポートしている。

病理学・医療安全管理部門

病理学部門は、事業計画の（２）（３）（５）（６）（８）を担当する。実務としての院内死亡例に対する病理解剖を実施し、患者さんの検体、標本、症例に向き合い、病理学の専門的な見地から病理診断を担当し、病理学で得られた成果を臨床の現場に伝え、実際の治療や将来の死因究明に役立てる知見を明らかにしていく。また、臨床研修医や担当医師に対して教育型CPC（clinico-pathological conference）を実施し、病理学を通じて死亡に至った原因を明らかにし、実験病理学と人体病理学を統合する人材育成に取り組む。

医療安全管理部門は、事業計画の（３）（５）（６）（８）を担当する。実務として医療安全に係る各種委員会並びに会議の運営を行う。その活動は、北海道大学病院にとどまらず、北海道内の各医療機関と連携し、安全な医療を提供できるよう調整を行う。特に、医療事故調査制度の対象となる死亡事例が発生した場合には、疑い段階における対象事例か否かの相談に対する助言、死亡時画像診断や解剖の実施の援助、外部調査委員の推薦（部門員自らが調査委員になることも多い）を行い、医療事故の原因究明並びに再発防止および医療の質の向上に向けた支援を行う。また、法医学部門・病理学部門・オートプシー・イメージング部門と協力し、院内死亡事例に対する死亡時画像診断・解剖の実施指示、結果の集積並びに解析を行っている。患者家族や医療機関への説明を通じて、医療を受ける側並びに提供する側、双方の納得が得られる取り組みを担当する。

オートプシー・イメージング部門

オートプシー・イメージング部門は、事業計画の（３）（５）（６）（７）（８）を担当する。実務として学内外医療機関の院内死亡に対する死亡時画像診断を実施し、読影を含めて幅広く死因究明の意義を多くの研究医に学習させる機会を提供し、大学院進学等を通じて死因究明を担う人材育成に向けた取り組みを実施してゆく。また、病理学部門と協力し、臨床研修医や担当医師に対して教育型CRPC（clinico-radiological-pathological

conference) を実施し、放射線診断学を通じて死亡に至った原因を明らかにし、画像所見と解剖所見から死因を総合的に判断する力を養う取り組みを担当する。

法歯学部門

法歯学部門は、事業計画の（４）（５）（６）（７）（８）を担当する。実務として、司法解剖において身元確認が必要なご遺体の法歯学的所見を記録し、警察等の身元確認業務に必要な知見を明らかにしてゆく。また、歯学部教育の中に法歯学教育を取り入れ、法歯学的知識の有用性と実用性について広く知見を広め、実務で活用できる臨床歯科医師育成への取り組みを担当する。

Ⅲ. 死因究明教育研究センター 教育研究概要と実績 事業実績

- (1) 異状死の死因究明に係る法医学解剖の実施
- (2) 死後画像診断を利用した死体検案等の実施
- (3) 病院内突然死等の死因究明・医療事故調査における死後画像診断、法医・病理解剖の実施
- (4) 異状死や身元不明造体に対する歯科的所見による身元確認
- (5) 死因究明・死体検案・死後画像診断・法歯学等のセミナー、研修会、講演会の開催
- (6) 教育プログラム等の実施による死因究明等を担う人材育成
- (7) 各研究科等で得られた法医学のデータを集積しデータベースの構築
- (8) アクティブ・ラーニング授業科目の実施
- (9) 薬毒物鑑定の実施

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
(1) 件	378	389	385	463
(2) 件	1137	1370	1306	1445
(3) 件	30	34	51	38
(4) 件	47	90	164	180
(5) 回	3	6	4	5
(6) 名	19	19	20	6
(7) 件	10	10	10	10
(8) 件	4	4	4	5
(9) 件	619	580	532	580

開催教育セミナー・講演会・講習会

<全部門共通>

・第 29 回 死因究明教育研究センターセミナー

2024 年 10 月 18 日（金曜日）18:00～19:00

演題：法医学領域における臨床検査技師の役割－監察医務院での 1 日－

講演者：早田璃菜 先生

御所属・職：東京都監察医務院検査科・臨床検査技師

場所：北海道大学医学研究院学友会館 1 階フラテホール

（ハイブリッド開催：ZOOM によるオンライン視聴可能）

・第 30 回 死因究明教育研究センターセミナー

2024 年 10 月 30 日（水）18:00～19:00

演題：安全なお産のために解剖検査の役割について

講演者：若狭朋子 先生

御所属・職：近畿大学奈良病院病理診断科・臨床教授、診療部長

座長：田中 敏 先生（北海道大学大学院医学研究院死因究明教育研究センター）

場所：WEB（Zoom）による開催

・第 31 回 死因究明教育研究センターセミナー

2024 年 11 月 13 日（水曜日）17:00～18:00

演題：北海道 CDR における乳幼児突然死症候群（SIDS）の検証結果と予防策

講演者：佐々木理 先生

御所属・職：社会医療法人母恋天使病院・小児科科長

座長：武田充人 先生（北海道大学大学院医学研究院小児科学教室・准教授）

場所：Web（ZOOM）開催

・第 32 回 死因究明教育研究センターセミナー

2024 年 11 月 20 日（水曜日）17:30～18:30

演題：歯科的個人識別への形態情報の利用

講演者：大谷真紀 先生

御所属・職：秋田大学大学院医学系研究科医学専攻社会環境医学系法医学講座・助教

座長：八若保孝 先生（小児・障害者歯科学教室・教授、死因究明教育研究センター）

場所：北海道大学歯学部講堂（北海道大学歯学部 B 棟 2 階）

・第 33 回 死因究明教育研究センターセミナー

2024 年 12 月 13 日（金曜日）18:00～19:00

演題：日常生活の法中毒

講演者：神 繁樹 先生

御所属・職：北海道大学大学院医学研究院法医学教室・講師、
死因究明教育研究センター

場所：北海道大学医学研究院学友会館 1 階フラテホール

・「死因究明学」履修状況（令和 6 年度）

履修者総数	57 名
大学院共通授業科目「死因究明学」	35 名
内訳 保健科学院	4 名
医学院	1 名
歯学院	2 名
理科系院	18 名
（理、工、総化、農、生、環境）	
文化系院	10 名
（教、文、法）	
大学院医学院基本医学総論「死因究明学」	7 名
大学院医学院医学総論「死因究明学」	15 名

令和 6 年度

死因究明教育研究センター実務実績・研究業績

法医学・中毒学部門

実務実績（令和6年1月1日～令和6年12月31日）

法医解剖	4 6 3 件
司法解剖	4 3 2 件
調査法解剖	2 6 件
承諾解剖	5 件
死体検案（C T 検査実施）	1 4 4 5 件
司法検視に伴う C T 検査	6 8 3 件
行政検視に伴う C T 検査	7 6 2 件
学内の C A S T（キャダバーサージカルトレーニング） におけるトレーニング前 C T 検査	1 5 件
刑事裁判証人出廷（鑑定人証言）	5 件

研究業績（2024.1－2024.12）

英文原著論文

- 1) Shimbashi S, Takeuchi A, Yoshimiya M, Jin S, Matoba K, Hyodoh H: Postmortem contrast-enhanced computed tomography via direct large-vessel puncture. Legal Med. 2024; 69: 102448.
- 2) Suzuka M, Jin S, Takeuchi A, Murakami M, Takahashi K, Matoba K: Influence of blood thiosulfate produced by postmortem changes for the diagnosis of hydrogen sulfide poisoning in forensic autopsy. Asian Biomed. 2024; 18: 281-286.

和文症例報告

- 1) 木内隆之, 神 繁樹, 的場智子, 竹内明子, 的場光太郎: 2,4-ジニトロフェノールの摂取により死亡した一剖検例. 法医学の実際と研究 2024; 67: 131-135.

国際学会発表

- 1) Yokozeki K, Kameda H, Miya A, Nomoto H, Nakamura A, Jin S, Matoba K, Atsumi T: Changes in Blood Steroid Hormone Profile after Switching from Metyrapone to Osilodrostat. ENDO 2024 (The Endocrine Society Annual Meeting), Boston, MA, U.S.A., 2024. 6. 1-4.

国内学会発表

(一般演題)

- 1) 木内隆之, 竹内明子, 神 繁樹, 的場光太郎: 法医診断における NT-proBNP 検査の有用性についての検討. 第 108 次日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター (岡山市), 2024. 6.
- 2) 竹内明子, 神 繁樹, 木内隆之, 的場光太郎: 致死的低体温症症例における死後肺 CT 画像所見の検討—輸液療法施行症例との比較—. 第 108 次日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター (岡山市), 2024. 6.
- 3) 的場光太郎, 江口亜矢子, 神 繁樹, 竹内明子, 木内隆之: 溺死例におけるエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置を用いた体液中 Sr 及び Br 濃度の評価. 第 108 次日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター (岡山市), 2024. 6.
- 4) 神 繁樹, 的場光太郎, 木内隆之, 竹内明子: トルフェンピラド摂取で死亡した事例における薬物分析. 第 108 次日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター (岡山市), 2024. 6.
- 5) 横関 恵, 亀田 啓, 宮 愛香, 野本博司, 神 繁樹, 的場光太郎, 中村昭伸, 渥美達也: 既存のクッシング症候群治療薬からオシロドロスタットへの切り替えによる血中ステロイドホルモンプロファイルの変化. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, パシフィコ横浜ノース (横浜市), 2024. 6.
- 6) 魚住 諒, 神 繁樹, 的場光太郎: LC-MS/MS を用いた血中ジギタリス由来中毒物質の測定. 第 72 回質量分析総合討論会, つくば国際会議場 (つくば市), 2024. 6.
- 7) 芳賀早苗, 森田直樹, 小澤岳昌, 神 繁樹, 的場光太郎, 尾崎倫孝: 低温環境が引き起こす肝細胞脂肪化に関する検討. 第 97 回日本生化学会大会, パシフィコ横浜ノース (横浜市), 2024. 11.

外部獲得資金

- 1) 高橋直也(代表), 高塚尚和(分担), 舟山一寿(分担), 成田啓廣(分担), 石川浩志(分担), 堀井陽裕(分担), 的場光太郎(分担): 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)児童虐待に対応するための小児死後 CT の至適条件, 死後変化, 診断の標準化の検討. 2020-2025.

- 2) 的場光太郎(代表), 神 繁樹(分担): 文部科学省科学研究費 基盤研究(C) 法昆虫中毒学に基づく新たな手法による高度腐敗事例の薬毒物検査法の開発. 2022-2025.
- 3) 竹内明子(代表), 的場光太郎(分担), 箕輪和行(分担), 神 繁樹(分担): 文部科学省科学研究費 基盤研究(C) 歯科的身元確認を支援する包括的歯科材料データベースの構築-災害時応用を目指して. 2024-2027.

病理学・医療安全管理部門

実務実績（令和6年1月1日～令和6年12月31日）

病理解剖総数	16例
北海道大学病院症例	15例
北海道大学病院以外の症例	1例
（分子病理学教室，腫瘍病理学教室症例を含む）	
Autopsy imaging を伴う症例	14例
医療安全管理部門関与症例	1例
法医学的毒性検索	14例
（以上，重複あり）	

CPC および CRPC 開催総数	23回
（分子病理学教室，腫瘍病理学教室症例を含む）	

教育型 CPC（CRPC）開催総数			3回
令和6年10月16日	72歳	女性	全身性強皮症、間質性肺炎、肺高血圧
令和6年11月20日	29歳	男性	von Recklinghausen 病、気管切開後狭窄
令和6年12月26日	81歳	男性	ALS、レビー小体病、器質化肺炎

医療事故調査委員会	
北海道大学病院	2件
他医療機関	13件
（内訳）調査委員長	5件
調査委員推薦など	8件

医療安全管理部門院内講演会	4回
医療安全管理会議	
リスクマネージャー連絡会議	11回
医療安全管理部門会議	11回
医療安全管理委員会	12回

研究業績 (2024.1–2024.12)

英文原著論文

- 1) Wang M, Kono M, Yamaguchi Y, Islam J, Shoji S, Kitagawa Y, Fushimi K, Watanabe S, Matsuba G, Yamamoto A, Tanaka M, Tsuda M, Tanaka S, Hasegawa Y: Structure-changeable luminescent Eu(III) complex as a human cancer grade probing system for brain tumor diagnosis. *Sci Rep.* 2024;14(1): 778.
- 2) Tamura T, Mizuma K, Nasser H, Deguchi S, Padilla-Blanco M, Oda Y, Uriu K, Tolentino JEM, Tsujino S, Suzuki R, Kojima I, Nao N, Shimizu R, Wang L, Tsuda M, Jonathan M, Kosugi Y, Guo Z, Hinay AA Jr, Putri O, Kim Y, Tanaka YL, Asakura H, Nagashima M, Sadamasu K, Yoshimura K; Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan) Consortium; Saito A, Ito J, Irie T, Tanaka S, Zahradnik J, Ikeda T, Takayama K, Matsuno K, Fukuhara T, Sato K. Virological characteristics of the SARS-CoV-2 BA.2.86 variant. *Cell Host Microbe.* 2024;32(2): 170–180. e12.
- 3) Sun X, Watanabe T, Oda Y, Shen W, Ahmad A, Ouda R, de Figueiredo P, Kitamura H, Tanaka S, Kobayashi KS. Targeted demethylation and activation of NLRC5 augment cancer immunogenicity through MHC class I. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2024; 121(6) e2310821121.
- 4) Tamura, T., Ito, H., Torii, S., Wang, L., Suzuki, R., Tsujino, S., Kamiyama, A., Oda, Y., Tsuda, M., Morioka, Y., Suzuki, S., Shirakawa, K., Sato, K., Yoshimatsu, K., Matsuura, Y., Iwano, S., Tanaka S., Fukuhara, T., Akaluc bioluminescence offers superior sensitivity to track in vivo dynamics of SARS-CoV-2 infection. *ISCIENCE.* 2024.
- 5) Tamura T, Irie T, Deguchi S, Yajima H, Tsuda M, Nasser H, Mizuma K, Plianchaisuk A, Suzuki S, Uriu K, Begum MM, Shimizu R, Jonathan M, Suzuki R, Kondo T, Ito H, Kamiyama A, Yoshimatsu K, Shofa M, Hashimoto R, Anraku Y, Kimura KT, Kita S, Sasaki J, Sasaki-Tabata K, Maenaka K, Nao N, Wang L, Oda Y; Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan) Consortium; Ikeda T, Saito A, Matsuno K, Ito J, Tanaka S, Sato K, Hashiguchi T, Takayama K, Fukuhara T. Virological characteristics of the SARS-CoV-2 Omicron XBB.1.5 variant. *Nat Commun.* 2024; 15(1): 1176.

- 6) Oki S, Ishi Y, Sawaya R, Okamoto M, Motegi H, Tanei ZI, Tsuda M, Mori T, Nishioka K, Kanno-Okada H, Aoyama H, Tanaka S, Yamaguchi S, Fujimura M. Clinical outcome, radiological findings, and genetic features of IDH-mutant brainstem glioma in adults. *Acta Neurochir (Wien)*. 2024;166(1): 263.
- 7) Qi J, Amrutha AS, Ishida-Ishihara S, Dokainish HM, Hashim PK, Miyazaki R, Tsuda M, Tanaka S, Tamaoki N. Caging Bioactive Triarylimidazoles: An Approach to Create Visible Light-Activatable. *Drugs. J Am Chem Soc*. 2024.
- 8) Shimizu H, Enda K, Koyano H, Shimizu T, Shimodan S, Sato K, Ogawa T, Tanaka S, Iwasaki N, Takahashi D. Bimodal machine learning model for unstable hips in infants: integration of radiographic images with automatically-generated clinical measurements. *Sci Rep*. 2024;14(1): 17826.
- 9) Hirose T, Ikegami M, Kida K, Ueno T, Kitada R, Wang L, Tanaka S, Endo M, Nakashima Y, Kanomata N, Mano H, Yamauchi H, Kohsaka S. Cancer risk assessment of premalignant breast tissues from patients with BRCA mutations by genome profiling. *NPJ Breast Cancer*. 2024;10(1): 87.
- 10) Yamada K, Yaguchi H, Ishikawa K, Tanaka D, Oshima Y, Mizushima K, Fujii S, Nomura T, Kudo A, Uwatoko H, Shirai S, Takahashi-Iwata I, Matsushima M, Miyaishi R, Otsuka N, Tanei ZI, Yamaguchi S, Tanaka K, Taniguchi K, Tanaka S, Yabe I. Pretreatment pathology study in anti-LGI1 encephalitis. *J Neurol Sci*. 2024; 466: 123258.
- 11) Wakisaka A, Kimura K, Morita H, Nakanishi K, Daimon M, Nojima M, Itoh H, Takeda A, Kitao R, Imai T, Ikeda T, Nakajima T, Watanabe C, Furukawa T, Ohno I, Ishida C, Takeda N, Komai K.: Efficacy and Tolerability of Ivabradine for Cardiomyopathy in Patients with Duchenne Muscular Dystrophy. *Int Heart J*. 2024;65(2): 211-217
- 12) Maruo Y, Shiraishi M, Hibino M, Abe J, Takeda A, Yamada Y.: Activation of Mitochondria in Mesenchymal Stem Cells by Mitochondrial Delivery of Coenzyme Q₁₀. *Biol Pharm Bull*. 2024;47(8): 1415-1421.

- 13) Chida-Nagai A, Masaki N, Maeda K, Sasaki K, Sato H, Muneuchi J, Ochiai Y, Murayama H, Tahara M, Shiono A, Shinozuka A, Kono F, Machida D, Toyooka S, Sugimoto S, Nakamura K, Akagi S, Kondo M, Kasahara S, Kotani Y, Koizumi J, Oda K, Harada M, Nakajima D, Murata A, Nagata H, Yatsunami K, Kobayashi T, Matsunaga Y, Inoue T, Yamagishi H, Nakagawa N, Ohtani K, Yamamoto M, Ito Y, Hokosaki T, Kuwahara Y, Masutani S, Nomura K, Wada T, Sawada H, Abiko M, Takahashi T, Ishikawa Y, Okada S, Naitoh A, Toda T, Ando T, Masuzawa A, Hoshino S, Kawada M, Nomura Y, Ueno K, Ohashi N, Tachibana T, Cao Y, Ueda H, Yanagi S, Koide M, Mitsushita N, Higashi K, Minosaki Y, Hayashi T, Okamoto T, Kuraishi K, Ehara E, Ishida H, Horigome H, Murakami T, Takei K, Ishii T, Harada G, Hirata Y, Maeda J, Tatebe S, Ota C, Hayabuchi Y, Sakazaki H, Sasaki T, Hirono K, Suzuki S, Yasuda M, Takeda A, Sawada M, Miyaji K, Kitagawa A, Nakai Y, Kakimoto N, Agematsu K, Manabe A, Saiki Y.: Corrigendum: Use of the index of pulmonary vascular disease for predicting longterm outcome of pulmonary arterial hypertension associated with congenital heart disease. *Front Cardiovasc Med.* 2024; 11: 1369831.

- 14) Shiraishi M, Sasaki D, Hibino M, Takeda A, Harashima H, Yamada Y.: Human cardiosphere-derived cells with activated mitochondria for better myocardial regenerative therapy. *J Control Release.* 2024; 367: 486-499.

- 15) Chida-Nagai A, Akagawa H, Sawai S, Ma YJ, Yakuwa S, Muneuchi J, Yasuda K, Yamazawa H, Yamamoto T, Takakuwa E, Tomaru U, Furutani Y, Kato T, Harada G, Inai K, Nakanishi T, Manabe A, Takeda A, Jing ZC.: Identification of *Prostaglandin I₂ Synthase* Rare Variants in Patients With Williams Syndrome and Severe Peripheral Pulmonary Stenosis. *J Am Heart Assoc.* 2024 May 7;13(9): e032872.

- 16) Chida-Nagai A, Sato H, Yamazawa H, Takeda A, Yonemoto N, Tahara Y, Ikeda T.: Impact of the COVID-19 pandemic on pediatric out-of-hospital cardiac arrest outcomes in Japan. *Sci Rep.* 2024 May 16;14(1): 11246.

- 17) Sato I, Hibino M, Takeda A, Harashima H, Yamada Y.J: Activation of Mitochondrial Oxygen Consumption Rate by Delivering Coenzyme Q₁₀ to Mitochondria of Rat Skeletal Muscle Cell (L6). *Pharm Sci.* 2024 Jul;113(7): 1836-1843.

- 18) Sato T, Kihara Y, Ishiguro K, Shichiji M, Murakami T, Nagata S, Shimada E, Inai K, Takeda A, Ishigaki K.: Cross-sectional Study of the Association between Plasma Brain Natriuretic Peptide Levels and Left Ventricular Shortening Fraction in Fukuyama Congenital Muscular Dystrophy. *Tohoku J Exp Med.* 2024 Nov 21.

英文症例報告

- 1) Sun Y, Nie Y, Wang L, Gong JP, Tanaka S, Tsuda M. Tumor-mimetic hydrogel stiffness regulates cancer stemness properties in H-Ras-transformed cancer model cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025; 743: 151163. Epub 2024 Dec 10.
- 2) Yamaguchi Y, Tomeoka F, Ajiki M, Takada T. Authors' Response to Letter to the Editor: Acute Hemorrhagic Leukoencephalitis with Concurrent Retinal Vasculitis in an Elderly Japanese Patient: A Case Report. *Intern Med.* 2024; 4405-24. Epub ahead of print.
- 3) Konishi T, Funayama N, Hotta D, Tanaka S. Acute eosinophilic myocarditis mimicking inferior myocardial infarction presenting with delayed hypereosinophilia. *Cardiol J.* 2024;31(2): 361-362.
- 4) Arizono E, Tanei Z, Iijima K, Kimura Y, Shigemoto Y, Maki H, Kusama M, Murayama K, Iwasaki M, Saito T, Saito Y, Saito K, Sato N. MRI detection of mild malformation of cortical development with oligodendroglial hyperplasia (MOGHE) on T1WI-CHESS. *Epilepsy Behav Rep.* 2024; 26: 100674.
- 5) Misonou K, Doi T, Shirai Y, Nagahara D. Histopathology of an autopsy case of a leadless pacemaker system: a case report. *Eur Heart J Case Rep.* 2024; 8(3): ytae120.
- 6) Saito M, Tanei Z, Tsuda M, Suzuki T, Yokoyama E, Kanaya M, Izumiyama K, Mori A, Morioka M, Kondo T. Transformed gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma originating in the colon and developing metachronously after *Helicobacter pylori* eradication: A case report. *World J Gastrointest Oncol.* 2024;16(10): 4281-4288.
- 7) Fujita Y, Chida-Nagai A, Takeda A.: Tricuspid stenosis due to pectus excavatum in a paediatric patient with trisomy 21. *Eur Heart J Case Rep.* 2024;8(3):

ytael04.

- 8) Yano T, Takeda A, Murayama K.: A hidden cause of middle-aged onset heart failure with preserved ejection fraction: a GTPBP3 variant. Eur Heart J. 2024;45(30): 2794.
- 9) Honda S, Kawakita I, Okumura K, Ara M, Goto R, Takeda A, Shimamura T, Kawahara I, Taketomi A.: Unusual rapid development of portopulmonary hypertension after shunt closure for congenital portosystemic shunt. J Paediatr Child Health. 2024;60(10): 606-609.

英文その他

- 1) Yamakado T, Tanei ZI, Ishikawa Y, Kimura T, Ishida Y, Tanaka S. Sporadic gastric foveolar-type adenoma with morular metaplasia. Pathol Int. 2024;74(8): 489-492.

和文総説

- 1) 武田 充人(分担執筆): 【完全把握をめざす小児の心疾患】後天性心疾患 小児の心筋症. 小児内科(0385-6305) 2024;56(4): 657-660.
- 2) 武田 充人(分担執筆): 【公費補助制度を使いこなす!】総論 養育医療. 小児科診療(0386-9806) 2024;87(8): 873-875.
- 3) 内田佳子, 長村敏生, 沼口敦, 古野憲司, 佐々木理, 佐藤工, 諸橋環, 石原唯史, 松原知代, 種市尋宙, 伊藤友理枝, 澤田博文, 加納原, 石川順一, 塚原紘平, 原卓也, 清澤伸幸: 日本小児救急医学会 調査研究委員会 委員会報告 第17報 わが国における小児死亡症例の現状と課題 ～第2期 JRSC (Japan Registry System for Children with critical disease) 登録結果をふまえて～ (4) 死亡症例の検証作業の現状 ―検証体制の仕組みと検証結果の実情―. 日本小児救急医学会雑誌 2024;23(3): 392-394.
- 4) 古野憲司, 長村敏生, 沼口敦, 内田佳子, 佐々木理, 佐藤工, 諸橋環, 石原唯史, 松原知代, 種市尋宙, 伊藤友理枝, 澤田博文, 加納原, 石川順一, 塚原紘平, 原卓也, 清澤伸幸: 日本小児救急医学会 調査研究委員会 委員会報告 第18報 わが国における小児死亡症例の現状と課題 ～第2期 JRSC (Japan Registry System for Children with critical disease) 登録結果をふまえて～ (5) 登録施設にフィードバックされた検証結果の活用方法. 日本小児救急医学会雑誌 2024;23(3): 395-396.

- 5) 佐々木理: 予防のための死亡登録検証制度 (CDR) での個別検証・概観検証からみた医療的ケア児の死因究明. 日本小児突然死予防医学会雑誌 2024;24(1): 19-21.

国際学会発表
(一般演題)

- 1) Wang L, Kubota T, Tsuda M, Oda Y, Hirano S, Gong JP, Tanaka S: Establishment of novel treatment-resistant cell lines using hydrogel. The 42nd Sapporo International Cancer Symposium, Poster Presentation, Grand Mercure Sapporo Odori Park, Sapporo, Japan, 2024.6.6-8.
- 2) Shirai Y, Tsuda M, Wang L, Oda Y, Tanei Z, Tanaka S: Exploration of glioma stem cell niches using hydrogel: The interaction between glioblastoma and astrocytes. The 42nd Sapporo International Cancer Symposium, Poster Presentation, Grand Mercure Sapporo Odori Park, Sapporo, Japan, 2024.6.6-8.
- 3) Terashima Y, Park S, Ikeuchi H, Hayashi T, Ikeuchi H, Kojima S, Ueno T, Ikegami M, Kitada R, Suehara Y, Tanaka S, Suzuki K, Mano H, Takamochi K, Kohsaka S: Comprehensive RNA profiling of lung adenocarcinoma in never/light smoker. The 42nd Sapporo International Cancer Symposium, Grand Mercure Sapporo Odori Park, Sapporo, Japan, 2024.6.6-8.
- 4) Tsujino S, Tamura T, Mizuma K, Nasser H, Deguchi S, Padilla-Blanco M, Oda Y, Uriu K, Tolentino JEM, Suzuki R, Kojima I, Nao N, Shimizu R, Wang L, Tsuda, Jonathan M, Kosugi Y, Guo Z, Hinay AAJ, Putri O, Kim Y, Tanaka YL, Asakura H, Nagashima M, Sadamasu K, Yoshimura K, The Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan) Consortium, Saito A, Ito J, Irie T, Tanaka S, Zahradnik J, Ikeda T, Takayama K, Matsuno K, Sato K, Fukuhara T: Virological characteristics of the SARS-CoV-2 BA.2.86 variant. American Society for Virology 43rd Annual Meeting, Columbus, Ohio, U.S.A, 2024.6.24-28.
- 5) Ferdous Z, Clément JE, Gong JP, Tanaka S, Komatsuzaki T, Tsuda M: Morphological Difference in Hydrogel Induced Cancer Stem Cell in Synovial Sarcoma Model Cells. 2024 International Union of Pure and Applied Biophysics (IUPAB) Congress, Kyoto, Japan, 2024.6.24-28.
- 6) Sawai S, Oda Y, Saito Y, Wang L, Tanei Z, Hirabayashi S, Tsuda M, Tanaka S, Atsushi Manabe: Analysis for stem cell induction of leukemia using hydrogel.

The JSH International Symposium 2024 in Hakodate, Hakodate, Japan, 2024, 6, 13-14.

- 7) Ferdous Z, Clément JE, Tsuda M, Wang L, Gong JP, Backlitz T, Fujita K, Tanaka S, Komatsuzaki T: Raman Imaging Algorithm for Analyzing Therapy-Resistant Cancer Cells. 28th International Conference on Raman spectroscopy - ICORS 2024, Rome, Italy, 2024.7.28-8.2.
- 8) Suzuka J, Saeki S, Kumegawa K, Miyata K, Tsuchiya A, Ueno T, Tsuda M, Gong JP, Tanaka S, Maruyama R: Analysis of the induction mechanism of breast cancer cell dedifferentiation and its malignant trait using hydrogel. The 2024 Cold Spring Harbor meeting: Mechanisms & Models of Cancer, New York, USA, 2024.08.
- 9) Fujita S, Plianchaisuk A, Deguchi S, Ito H, Nao N, Wang L, Kida I, Uriu K, Yamasoba D, The Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan) consortium, Ito J, Ikeda T, Tanaka S, Matsuno K, Fukuhara T, Takayama K, Sato K: Virological characteristics of a SARS-CoV-2-related bat coronavirus, BANAL-20-236, using human organoid systems and hamster model. Preparing for the Next Pandemic. Evolution, Pathogenesis and Virology of Coronaviruses (Cold Spring Harbor Asia conference), Awaji Yumebutai Conference Center Awaji, JAPAN, 2024.12.2-5.
- 10) Takeda A, Yamazawa H, Sasaki D, Chida-Nagai A, Takahata A, Itabashi T: Role of immunostaining methods in the diagnosis of mitochondrial cardiomyopathy. 57th Annual Meeting of the Association for European Pediatric and Congenital Cardiology (AEPC), Porto, Portugal, 2024.5.8-5.11.
- 11) Yamazawa H, Takeda A, Suzuki Y, Ueno M, Ikeda Y, Ohta-Ogo K, Sakaguchi H: A pediatric case of dilated cardiomyopathy with inflammatory cell infiltration on histological examination. 57th Annual Meeting of the Association for European Pediatric and Congenital Cardiology (AEPC), Porto, Portugal, 2024.5.8-5.11.
- 12) Maruo Y, Itabashi T, Takahata A, Sasaki D, Chida-Nagai A, Yamazawa H, Takeda A: High-dose angiotensin converting enzyme inhibitors and β -blocker in infantile dilated cardiomyopathy. 57th Annual Meeting of the Association for

European Pediatric and Congenital Cardiology (AEPC), Porto, Portugal, 2024.5.8–5.11.

- 13) Izumi G, Shiraishi M, Itosu Y, Nishikawa N, Kato H, Kato N, Takeda A, Yamazawa H, Saito H, Morimoto Y: Risk factors for perioperative pulmonary hypertension crisis after systemic-pulmonary shunt: a single-center retrospective observational study. 57th Annual Meeting of the Association for European Pediatric and Congenital Cardiology (AEPC), Porto, Portugal, 2024.5.8–5.11.
- 14) Matsumura Y, Izumi G, Shiraishi M, Saito H, Kato H, Itosu Y, Nishikawa N, Takeda A, Yamazawa H, Kato N, Morimoto Y: Impact of the dominant ventricle on perioperative outcomes after Fontan surgery: a single-center retrospective observational study. 57th Annual Meeting of the Association for European Pediatric and Congenital Cardiology (AEPC), Porto, Portugal, 2024.5.8–5.11.
- 15) Sato I, Hibino M, Takeda A, Harashima H, Yamada Y: Validation of drug delivery and functional activation to mitochondria in cardiomyocytes. 57th Annual Meeting of the Association for European Pediatric and Congenital Cardiology (AEPC), Porto, Portugal, 2024.5.8–5.11.
- 16) Takeda A, Ueki M, Matsuo M, et al.: Importance of splicing variants in the TAZ gene: A case report. 2024 Barth Syndrome International Conference, Florida, USA, 2024.7.29–8.3.

(シンポジウム)

- 1) Takeda A: Pathophysiology and management of cardiomyopathy associated with neuromuscular disease. Joint Conference of the 22nd Annual Meeting of Asian Oceanian Myology Center and the 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society (AOMC-JMS 2024), Nara, Japan, 2024.

国内学会発表

(一般演題)

- 1) 種井善一, 小野裕介, 小田義崇, 津田真寿美, 大竹安史, 今村博幸, 小柳泉, 飛騨一利, 水上裕輔, 田中伸哉: 脊髄 capillary hemangioma の病理像. 第113回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024.3.28–30.

- 2) 小田義崇, 津田真寿美, 王 磊, 種井善一, G2P-Japan, 福原崇介, 佐藤 佳, 田中伸哉: ハムスター肺炎モデルを用いた SARS-CoV-2 肺炎の病理組織学的解析. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 3) 白井裕介, 種井善一, 川内真, 松居剛志, 小田義崇, 津田真寿美, 篠原敏也, 太田聡, 田中伸哉: 神経性食思不振症の病理剖検症例. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 4) 伊勢昂生, 大塚拓也, 濱 憲輝, 潟沼朗生, 小田義崇, 種井善一, 津田真寿美, 太田聡, 篠原敏也, 田中伸哉: 正中弓状靱帯症候群と膵頭部癌により致命的な十二指腸出血を来した 1 剖検例. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 5) 王 磊, 窪田武哲, 津田真寿美, 小田義崇, 平野聡, グン剣萍, 田中伸哉: ハイドロゲルを用いた新規治療耐性細胞株の樹立. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 6) Sun Y, Nie Y, Tsuda M, Wang L, Gong JP, Tanaka S: Analysis of stiffness of tumor microenvironment on cancer stemness generation using hydrogels. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 7) Nie Y, Sun Y, Tsuda M, Wang L, Gong JP, Tanaka S: Investigation of electric charge on cancer stem cell generation in tumor microenvironment. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 8) 馬詰知佐, 種井善一, 小田義崇, 藤井恭子, 王 磊, 津田真寿美, 山口大志, 中村 博彦, 田中伸哉 1: 30 代男性のアミロイドアングリオパチーの病理像. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 9) 山内智仁, 種井善一, 長井淳, 小田義崇, 菊池 遼, 小野澤真弘, 津田真寿美, 田中敏, 豊島崇徳, 田中伸哉: 肺小細胞癌の治療中に白血球増多と線維素性心外膜炎を認めた一例. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.

- 10) 長野七海, 種井善一, 福島大地, 小田義崇, 王 磊, 津田真寿美, 山村明範, 田中伸哉: 左同名半盲をきたした頭蓋内腫瘍の一例. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 11) 京野里虹, 種井善一, 伊師雪友, 小田義崇, 王 磊, 津田真寿美, 佐藤憲市, 寺坂俊介, 田中伸哉: BRAF p.V600E 変異を有する High-grade Glioma の病理学的研究. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 12) 黒田花音, 小田義崇, 岡本迪成, 村木岳史, 種井善一, 王 磊, 津田真寿美, 高阪真路, 西原広史, 田中伸哉: 14 年後に再発した BRAF V600E 変異を有する low-grade glioma の 1 例. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 13) 戸田壮太郎, 小田義崇, 種井善一, 王 磊, 大森優子, 石田雄介, 津田真寿美, 松岡健, 田中伸哉: 新規 MT-ATP6m. 8639T>C 変異を伴う MELAS についての病理組織学的検討. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 14) 岸本佳子, 種井善一, 青木健志, 棒田浩基, 小田義崇, 王 磊, 津田真寿美, 田中伸哉: 慢性肺血栓塞栓症の二剖検例. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 15) 宮本裕也, 種井善一, 小田義崇, 王磊, 津田真寿美, 田中伸哉: FFPE 検体の質量分析による交感神経節のレビー小体関連分子の探索. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 16) 鍵谷豪太, 種井善一, 小田義崇, 王磊, 津田真寿美, 飛驒一利, 田中伸哉: Nerve sheath myxoma のプロテオミクス解析によるマーカー探索. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.
- 17) 岸浪 建, 小田義崇, 王 磊, 江端 浩, 伊勢昂生, 白井裕介, 加藤万里絵, 種井善一, 津田真寿美, 宮城島拓人, 田中伸哉: マントルリンパ腫とびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の discordant lymphoma の一解剖例. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.

- 18) 伊勢昂生, 種井善一, 小田義崇, 王 磊, 津田真寿美, 山口 秀, 飛驒一利, 田中伸哉: 動脈塞栓術後に摘出された右蝶形骨縁髄外腫瘍の1例. 第65回 日本神経病理学会総会学術研究会海峡メッセ下関 (山口県), 2024. 5. 16-18.
- 19) 遠田 建, 小田義崇, 種井善一, 田中伸哉: AI を活用した悪性脳腫瘍の病理組織画像の分類: グリオーマ, 悪性リンパ腫, 転移性脳腫瘍の識別. 第6回日本メディカルAI学会学術集会 (名古屋市) 2024. 6. 21-22.
- 20) 鈴鹿 淳, 佐伯澄人, 糸川昂平, 土屋あい, 上野貴之, 津田真寿美, 田中伸哉, 丸山玲緒: Plasticity and malignant phenotype of breast cancer cells focusing on dedifferentiation ability induced by hydrogel (ハイドロゲルにより誘導される脱分化能に着目した乳がん細胞の可塑性および悪性形質の検討). 第83回日本癌学会学術総会 (博多市), 2024. 09.
- 21) 王 磊, 津田真寿美, 田中伸哉: ハイドロゲルにより誘導した膀胱がん幹細胞の特性解析と治療標的分子の探索. 第129回北海道癌談話会例会, 第104回北海道医学大会 (腫瘍分科会), 札幌医科大学 (札幌市), 2024. 9. 14.
- 22) Tsuda M, Wang L, Oda Y, Tanaka S: Treatment strategy targeting glioma stem cells latent in the microvascular proliferation niche. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡国際会議場・福岡マリンメッセ (福岡市), 2024. 9. 19-21.
- 23) 王 磊, 津田真寿美, 田中伸哉: Characteristics and targeted therapeutic prospects of bladder cancer stem cells induced on hydrogels. 第83回日本癌学会学術総会, 福岡国際会議場・福岡マリンメッセ (福岡市), 2024. 9. 19-21.
- 24) 孫 雁鵬, 聶 宇恒, 津田真寿美, 王 磊, グン剣萍, 田中伸哉: がん幹細胞生成における腫瘍微小環境の堅さの検討. 第104回北海道医学大会病理分科会・第57回北海道病理談話会, 旭川市大雪クリスタルホール (旭川市), 2024. 10. 12.
- 25) 宮崎龍, 津田真寿美, 斉嘉俊, 玉置信之, 田中伸哉: 乳がんおよび脳腫瘍細胞における光応答性 TGF- β 受容体 (ALK-5) 阻害薬の評価. 第47回日本分子生物学会年会, 福岡国際会議場 (福岡), 2024. 11. 27-29.

- 26) 高村敦子, 津田真寿美, 王磊, 小田義崇, 種井善一, 龔 劍萍, 田中伸哉: ハイドロゲル誘導グリオーマ幹細胞における COL6A2 の機能解析. 第 47 回日本分子生物学会年会, 福岡国際会議場 (福岡), 2024. 11. 27-29.
- 27) 澤井彩織, 小田義崇, 齋藤祐介, 桑原 傑, 王 磊, 種井善一, 平林真介, 津田真寿美, 真部 淳, 田中伸哉: ハイドロゲルを用いた白血病幹細胞誘導に関する研究. 第 66 回日本小児血液・がん学会学術集会, 国立京都国際会館 (京都市), 2024. 12. 13-15.
- 28) 清水知浩, 種井善一, 伊勢佳倫, 熊谷美也妃, 橋本大和, 渡部涼子, 石田裕子, 安孫子光春, 中里信一, 清水亜衣, 岡田宏美, 大塚紀幸, 外丸詩野, 田中伸哉: 胸水中に多数の異型細胞が出現した汗孔癌の 1 例. 第 44 回 北海道臨床細胞学会, 札幌, 2024. 12. 1.
- 29) 濱中薫由樹, 柴田賢吾, 吉田 雅, 市川伸樹, 大野陽介, 今泉 健, 石塚千紘, 武富紹信, 種井善一, 田中伸哉: ロボット支援下結腸右半切除術を施行したクローンカイトカナダ症候群に合併した上行結腸癌の 1 例. 第 125 回日本外科学会 (仙台市), 2024.
- 30) 大高和人, 高桑祐佳, 大塚慎也, 山崎 洋, 佐々木明宏洋, 椎谷洋彦, 藤原 晶, 氏家秀樹, 新垣雅人, 宮石 陸, 若林健人, 田中伸哉, 加藤達哉: 下咽頭癌, 食道癌に合併した脱分化型脂肪肉腫と考えられる中隔原発巨大軟部腫瘍の 1 例. 第 7 回北海道外科関連学会機構合同学術集会, (札幌市), 2024.
- 31) 佐藤逸美, 日比野光恵, 佐々木大輔, 武田充人, 原島秀吉, 山田勇磨: Duchenne 型筋ジストロフィーモデルラット細胞を用いたミトコンドリア呼吸能活性化による治療介入検討 第 66 回日本小児神経学会学術集会, (名古屋), 2024. 5. 30-6. 1.
- 32) 佐藤逸美, 日比野光恵, 武田充人, 原島秀吉 山田勇磨: ラット心筋細胞ミトコンドリアに対する薬物送達および機能活性化についての検討 第 66 回日本小児神経学会学術集会, (名古屋), 2024. 5. 30-6. 1.
- 33) 丸尾優爾, 白石真大, 佐々木大輔, 阿部二郎, 武田充人, 山田勇磨: ミトコンドリア標的型 Drug Delivery System を使用した移植幹細胞の機能改変と心疾患治療への応用 第 72 回日本心臓病学会学術集会, (仙台) 2024. 9. 27-29.
- 34) 佐藤逸美, 佐々木大輔, 阿部二郎, 武田充人, 山田勇磨: 新規 DMD モデルラット心筋細胞ミトコンドリアの機能評価と薬物送達技術を用いた DMD 心筋症治療法の開発 第

33 回日本小児心筋疾患学会・第 43 回日本小児循環動態研究会 合同学術集会, (岡山) 2024. 10. 26-27.

35) 田中 敏, 岩崎沙理, 宮武由甲子, 谷口浩二: タイト結合膜蛋白 occludin のジスルフィド結合は HIF-1 α を介した安定性や細胞増殖に関与する. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.

36) 田中 敏, 谷口浩二: タイト結合膜蛋白 occludin の細胞内ドメインは Cys を介して細胞増殖性を調節する. 第 47 回日本分子生物学会年会, (福岡市), 2024. 11. 27-29.

(シンポジウム, 特別講演, 教育講演等)

1) 田中伸哉: ハイドロゲルによるがん幹細胞誘導 (HARP 現象) と創薬への可能性. 第 19 回日本癌分子標的治療学会 TR ワークショップ (東京), 2024. 1. 26.

2) 田中伸哉: 病理学の未来-北海道大学の病理学研究の現状と展望. 医療・ヘルスサイエンス研究開発センター HELIOS シンポジウム, 北大医学部百年記念館 (札幌), 2024. 3. 1.

3) 田中伸哉: バイオマテリアルで細胞の運命を変える. 第 2 回ライブパソロジー研究会 (京都市), 2023. 3. 30.

4) Yanpeng S, Tanaka S: From Struggle to Enjoyment: My 10 years of research life in Japan. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.

5) 今城 正道, 陳 策文, Jian Ping Gong, 田中伸哉: 合成ハイドロゲルによるオルガノイドの制御と臓器新生. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2024. 3. 28-30.

6) 田中伸哉: ゲノム時代の脳腫瘍の統合病理診断. PathPort 病理セミナー (WEB 開催), 2024. 5. 18.

7) 田中伸哉: 特別講演「WHO2021 から 3 年でわかったこと, 困ったこと, その解決」. 日本脳腫瘍病理学会, 呉阪急ホテル (呉市), 2024. 5. 24-25.

- 8) 津田真寿美, 王磊, 小田義崇, 種井善一, 田中伸哉: バイオマテリアルを用いたグリオーマ幹細胞ニッチェの構築. 日本脳腫瘍病理学会, 呉阪急ホテル(呉市), 2024. 5. 24-25.
- 9) 津田真寿美, 王磊, 田中伸哉: グリオーマニッチェ別がん幹細胞を標的とした新規治療薬の同定. 第 28 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 有明セントラルタワーホール&カンファレンス (東京), 2024. 6. 19-21.
- 10) Tanaka S: Meningiomas beyond WHO CNS5: proposal for typing and grading using molecular criteria. Pre-ASN02024 Joint Education Session in Neuropathology ASN0-ASNP 19th Asian Society of Neuro-Oncology (ASN0), Singapore, 2024. 8. 15.
- 11) Tanaka S: Case-based seminar on application of different molecular platforms for routine diagnosis of CNS tumours. Pre-ASN02024 Joint Education Session in Neuropathology ASN0-ASNP 19th Asian Society of Neuro-Oncology (ASN0), Singapore, 2024. 8. 15.
- 12) Tanaka S, Wang L, Tsuda M: Hydrogel mimicking cancer stem cell niche creates cancer stem cells by rapid reprogramming and screening for therapeutic drugs. 第 83 回日本癌学会学術総会, 福岡国際会議場・福岡マリンメッセ (福岡市), 2024. 9. 19-21.
- 13) 田中伸哉: がん幹細胞 niche を模倣するハイドロゲルによる迅速ながん幹細胞へのリプログラミング誘導と治療薬の開発. 第 83 回日本癌学会総会 (福岡市), 2024. 9. 19.
- 14) 田中伸哉: 脳腫瘍病理診断: WHO2021 から 3 年後の現状と展望. 第 53 回北海道神経病理研究会, 北大医学部百年記念館 (札幌), 2024. 11 16.
- 15) 南須原康行: 「医師の働き方改革と医療安全」, 第 5 4 回日本心臓血管外科学会, 医療安全講習会, (浜松市), 2024. 2.
- 16) 南須原康行: 「医療安全と医療事故調査制度」, 第 5 1 回日本集中治療医学学会 専門医共通講習会 (医療安全), (札幌市), 2024. 3.

- 17) 南須原康行: 「3. 労務管理の要点: 施設管理者の立場から」, 第18回医療事故・紛争対応研究会年次カンファレンス, 「労務管理: 医療事故・過労死等の防止の為に」, Web 会合, 2024. 3.
- 18) 南須原康行: PD-3 (パネルディスカッション) 「医療事故調査における外部委員のあり方と課題」, 第19回医療の質・安全学会学術集会, (横浜市), 2024. 11.
- 19) 南須原康行: 「医療機関内の医療事故の機能的な報告体制の構築のための動画」. 第19回医療の質・安全学会学術集会, S-4 「医療機関内の医療事故の機能的な報告体制の構築について」. (横浜市), 2024. 11.
- 20) 武田充人: 「論文作成のコツ」 論文の書き方: Reviewer からの視点. 第60回 日本小児循環器学会総会・学術集会, (福岡) 2024. 7. 11-13.
- 21) 武田充人: 「心筋症における遺伝子診断の意義」ミトコンドリア心筋症における遺伝子診断の意義. 第60回 日本小児循環器学会総会・学術集会, (福岡) 2024. 7. 11-13.
- 22) 武田充人: シンポジウム2: ミトコンドリア病, その概念の広がりを目指す「ミトコンドリア心筋症」 第23回 日本ミトコンドリア学会年会, (東京) 2024. 11. 21-23.
- 23) 佐々木理: CDR での個別検証・概観検証からみた医療的ケア児の死因究明. 第29回日本小児突然死予防医学会学術集会, (福岡県北九州市) 2024. 2. 11.
- 24) 佐々木理: 小児保健領域における CDR の取り組み方, 模擬事例検証. 第71回日本小児保健協会学術集会 (札幌市), 2024. 6. 22.
- 25) 佐々木理: 日本の小児死亡の現状. 第6回小児死亡時対応講習会, (岡山県岡山市) 2024. 6. 30.
- 26) 佐々木理: 小児循環器領域の CDR 個別検証の実際. 第60回日本小児循環器学会学術集会, (福岡県福岡市), 2024. 7. 11.
- 27) 木下あゆみ, 小鹿学, 佐々木理, 仙田昌義, 沼口敦: 多職種による CDR 模擬検証. 第26回佐賀県小児保健大会, (佐賀県佐賀市) 2024. 10. 5.

講演会・セミナー

- 1) 根岸 淳: 医療安全に関する講演会「令和5年度 歯科インシデントより」. 北海道大学医学部臨床大講堂, 2024. 3. 7.
- 2) 南須原康行, 新沼悠介, 石黒信久: 医療安全・感染制御に関する講演会「2023年度のインシデントを振り返って」「個人情報保護について」「抗菌薬適正使用について」「新型コロナウイルス感染症5類化を振り返る」. 臨床大講堂/ Safety plus(e-learning), 2024. 7. 10.
- 3) 南須原康行: 「対応困難な患者さんについて～応召義務の考え方と臨床倫理～」, 2023年度患者相談窓口第2回総合カンファレンス, 釧路赤十字病院(釧路市), 2024. 3.
- 4) 南須原康行: 「現場保存・医療事故調査・事故報告書」, 医療事故・紛争対応研究会, 2024年度医療事故・紛争対応人材養成講座「医療安全・事故対応」. Web 開催, 2024. 4. And 2024. 6.
- 5) 南須原康行: 「医療安全の視点から見た診療記録」, 労働者健康安全機構, 令和6年度医療安全対策研修. Web 開催, 2024. 5.
- 6) 南須原康行: 「高齢者の終末期の医療について～D N A Rの正しい知識と記録の重要性～」. 愛全病院医療安全管理委員会, 院内医療安全研修, (札幌市), 2024. 8.
- 7) 南須原康行: 「医療機関内の医療事故の機能的な報告体制の構築のための研究」, 患者と医療をつなぐN P O法人架け橋, WHO「世界患者安全の日」制定5周年記念シンポジウム患者参加型医療の実現に向けて～院内体制を構築するために～. 厚生労働科学研究費補助金事業報告, Web 開催, 2024. 9.
- 8) 南須原康行: 「応召義務について」, 釧路労災病院, 2024年度院内研修会, (釧路市), 2024. 10.
- 9) 南須原康行: 「医療安全と医療倫理-院内周知と教育」, 東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座, 2024年度後期臨床死生学・倫理学研究会第2回オンラインセミナー, Web 開催, 2024. 10.
- 10) 南須原康行: 「大学病院における医療安全」, 福島県立医科大学令和6年度医療安全管理研修, (福島市), 2024. 10.

- 11) 南須原康行: 「医療安全アップデートーデイト」, 北海道厚生局, 令和6年度医療安全に関するワークショップ, Web開催, 2024. 10.
- 12) 南須原康行: 「医療に係る安全管理のための職員研修」, 札幌医科大学附属病院, (札幌市), 2024. 12.
- 13) 南須原康行: 【事故発生時の対応】「法制化された医療事故調査制度への対応」, 北海道病院協会, 2024年度「医療安全管理者養成講習 第3クール, Web開催, 2024. 12.
- 14) 南須原康行: 「救急搬送後の病院の対応」, (社団) 日本歯科医師会令和6年度医療事故調査制度研修, Web開催(オンデマンド), 2024. 12.
- 15) 武田充人: 「小児の二次性心筋症」. 国立精神神経センター 心筋症レクチャー (東京) 2024. 7. 26.
- 16) 武田充人: 特別講演「小児の二次性心筋症」. 第17回千葉県酵素補充療法研究 (千葉) 2024. 7. 26.
- 17) 武田充人: 北海道ACHDセミナー 2024「当院で経験した経皮的肺動脈弁留置術(TPVI)の一例」. 第132回日本循環器学会北海道地方会, (札幌) 2024. 11. 23.

外部獲得資金

- 1) 武田充人(分担): 日本医療研究開発機構 AMED, 新規治療とガイドライン改訂を見据えた, 包括的なミトコンドリア病のエビデンス創出研究.
- 2) 武田充人(分担): 日本医療研究開発機構 AMED, 先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究.
- 3) 武田充人(分担): 日本医療研究開発機構 AMED, 小児から成人に移行する慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査.
- 4) 武田充人(分担): 日本医療研究開発機構 AMED, デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対するミオスタチンを2重に阻害するアンチセンス核酸薬の開発.
- 5) 武田充人(分担): 日本医療研究開発機構 AMED, 先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と生涯にわたる QOL 改善のための総合的研究.

- 6) 武田充人(分担)：厚生労働科学研究費補助金，ミトコンドリア病の診療水準や QOL 向上を目指した調査研究.
- 7) 武田充人(分担)：文部科学省科学研究費 基盤研究(A)，ミトコンドリア遺伝子治療を実現するゲノム編集技術の創出.
- 8) 武田充人(分担)：文部科学省科学研究費 基盤研究(B)，空間トランスクリプトーム解析を用いたミトコンドリア心筋症の理解と制御.
- 9) 武田充人(代表)：文部科学省科学研究費 基盤研究(C)，小児の心筋症におけるミトコンドリア障害と心筋エネルギー代謝に関する研究.

オートブシー・イメージング部門

実務実績（令和6年1月1日～令和6年12月31日）

オートブシー・イメージング(Ai)総数	23例
院内Ai総数	21例
うち、剖検例	14例
うち、検案例	1例
院外Ai読影	2例
CRPC(clinic-radiological-pathological conference)	13回
教育型CPC	3回

研究業績（2024.1-2024.12）

英文原著論文

- 1) Nakagawa J, Fujima N, Hirata K, Harada T, Wakabayashi N, Takano Y, Homma A, Kano S, Minowa K, Kudo K: Diagnosis of skull-base invasion by nasopharyngeal tumors on CT with a deep-learning approach. Jpn J Radiol. 2024.
- 2) Fujima N, Nakagawa J, Ikebe Y, Kameda H, Harada T, Shimizu Y, Tsushima N, Kano S, Homma A, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: Improved image quality in contrast-enhanced 3D-T1 weighted sequence by compressed sensing-based deep-learning reconstruction for the evaluation of head and neck. Magn Reson Imaging. 2024.
- 3) Nishioka N, Shimizu Y, Shirai T, Ochi H, Bito Y, Watanabe K, Kameda H, Harada T, Kudo K: Automated detection of cerebral microbleeds on two-dimensional gradient-recalled echo T2* weighted images using a morphology filter bank and convolutional neural network. Magn Reson Med Sci. 2024.
- 4) Kameda H, Nakada Y, Urushibata Y, Sugimori H, Fujii T, Kinota N, Kato D, Tang M, Sakamoto K, Kudo K: Imaging of 17O-labeled water using fast T2 mapping with T2-preparation: A phantom study. Magn Reson Med Sci. 2024.
- 5) Fujima N, Nakagawa J, Ikebe Y, Kameda H, Harada T, Shimizu Y, Tsushima N, Kano S, Homma A, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: Improved image quality in

- contrast-enhanced 3D-T1 weighted sequence by compressed sensing-based deep-learning reconstruction for the evaluation of head and neck. *Magn Reson Imaging*. 108, 111-115, 2024.
- 6) Nakagawa J, Fujima N, Hirata K, Harada T, Wakabayashi N, Takano Y, Homma A, Kano S, Minowa K, Kudo K: Diagnosis of skull-base invasion by nasopharyngeal tumors on CT with a deep-learning approach. *Jpn J Radiol*. 42, 450-459, 2024.
 - 7) Fujima N, Nakagawa J, Kameda H, Ikebe Y, Harada T, Shimizu Y, Tsushima N, Kano S, Homma A, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: Improvement of image quality in diffusion-weighted imaging with model-based deep learning reconstruction for evaluations of the head and neck. *MAGMA*. 37, 439-447, 2024.
 - 8) Nishioka N, Fujima N, Tsuneta S, Yoshikawa M, Kimura R, Sakamoto K, Kato F, Miyata H, Kikuchi H, Matsumoto R, Abe T, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: Enhancing the image quality of prostate diffusion-weighted imaging in patients with prostate cancer through model-based deep learning reconstruction. *Eur J Radiol Open*. 13, 100588, 2024.
 - 9) Wakabayashi N, Watanabe S, Abe T, Takenaka J, Hirata K, Kimura R, Sakamoto K, Shinohara N, Kudo K: Safety and efficacy of multiple-dose versus single-dose MIBG therapy in patients with refractory pheochromocytoma and paraganglioma: a single-center retrospective analysis. *Ann Nucl Med*. 38, 553-562, 2024.
 - 10) Nishioka N, Shimizu Y, Kaneko Y, Shirai T, Suzuki A, Amemiya T, Ochi H, Bito Y, Takizawa M, Ikebe Y, Kameda H, Harada T, Fujima N, Kudo K: Accelerating FLAIR imaging via deep learning reconstruction: potential for evaluating white matter hyperintensities. *Jpn J Radiol*. 2024.
 - 11) Takenaka J, Watanabe S, Abe T, Tsuchikawa T, Takeuchi S, Hirata K, Kimura R, Wakabayashi N, Shinohara N, Kudo K: Predictive factors of early 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography response to [131I] metaiodobenzylguanidine treatment for unresectable or metastatic pheochromocytomas and paragangliomas. *Neuroendocrinology*. 114, 816-826, 2024.

- 12) Kinota N, Kameda H, Xiawei B, Fujii T, Kato D, Takahashi B, Morita R, Abo D, Majima R, Ishii H, Minowa K, Kudo K: Blockage of CSF outflow in rats after deep cervical lymph node ligation observed using Gd-based MR imaging. *Magn Reson Med Sci.* 23, 449-459, 2024.
- 13) Kato D, Kameda H, Kinota N, Fujii T, Xiawei B, Simi Z, Takai Y, Chau S, Miyasaka Y, Mashimo T, Abe Y, Yasui M, Minowa K, Kudo K: Loss of aquaporin-4 impairs cerebrospinal fluid solute clearance through cerebrospinal fluid drainage pathways. *Sci Rep.* 14, 27982, 2024.
- 14) Kinota N, Abo D, Morita R, Yamasaki K, Fujii T, Kato D, Kimura T, Sakuhara Y, Okada K, Yokota I, Orimo T, Kakisaka T, Nakamura T, Hirano S, Minowa K, Kudo K: Improvement of hypoalbuminemia and hepatic reserve after stent placement for post-surgical portal vein stenosis. *J Vasc Interv Radiol.* 2024.
- 15) Houkin K, Osanai T, Uchiyama S, Minematsu K, Taguchi A, Maruichi K, Niiya Y, Asaoka K, Kuga Y, Takizawa K, Haraguchi K, Yoshimura S, Kimura K, Tokunaga K, Aoyama A, Ikawa F, Inenaga C, Abe T, Tominaga A, Takahashi S, Kudo K, Fujimura M, Sugiyama T, Ito M, Kawabori M, Hess DC, Savitz SI, Hirano T. Allogeneic stem cell therapy for acute ischemic stroke: The Phase 2/3 TREASURE randomized clinical trial. *JAMA Neurol.* 81, 154-162, 2024.
- 16) Hirano Y, Fujima N, Ishizaka K, Aoike T, Nakagawa J, Yoneyama M, Kudo K: Utility of echo planar imaging with compressed sensing-sensitivity encoding (EPICS) for the evaluation of the head and neck region. *Cureus.* 16, e54203, 2024.
- 17) Kazui S, Takenaka S, Nagai T, Tsuneta S, Hirata K, Kato Y, Komoriyama H, Kobayashi Y, Takahashi A, Kamiya K, Temma T, Sato T, Tada A, Yasui Y, Nakai M, Sato T, Tsujino I, Kudo K, Konno S, Anzai T: Prognostic value of combined assessments of late gadolinium enhancement and fluorodeoxyglucose uptake in cardiac sarcoidosis. *JACC Cardiovasc Imaging.* 2024.
- 18) Kawabori M, Kuroda S, Shichinohe H, Kahata K, Shiratori S, Ikeda S, Harada T, Hirata K, Tha KK, Aragaki M, Terasaka S, Ito YM, Nishimoto N, Ohnishi S, Yabe I, Kudo K, Houkin K, Fujimura M: Intracerebral transplantation of MRI-

trackable autologous bone marrow stromal cells for patients with subacute ischemic stroke. Med. 2024.

- 19) Tanaka K, Miwa K, Koga M, Yoshimura S, Kamiyama K, Yagita Y, Nagakane Y, Hoshino H, Terasaki T, Okada Y, Yakushiji Y, Takahashi S, Ueda T, Hasegawa Y, Shiozawa M, Sasaki M, Kudo K, Tanaka J, Nishihara M, Yamaguchi Y, Fujita K, Honda Y, Kawano H, Ide T, Yoshimoto T, Ihara M, Hirano T, Toyoda K: Cerebral small vessel disease burden for bleeding risk during antithrombotic therapy: Bleeding with antithrombotic therapy 2 study. Ann Neurol. 95, 774–787, 2024.
- 20) Kosaka N, Uchiyama T, Onozawa M, Nagai J, Koya J, Ishizaka S, Nagai T, Ikebe Y, Kato K, Tanei ZI, Sakakibara-Konishi J, Hasegawa Y, Ohigashi H, Goto H, Hashimoto D, Ujiie H, Hirano S, Konno S, Anzai T, Taniguchi K, Tanaka S, Teshima T: Acute onset of constrictive pericarditis due to acute myelomonocytic leukemia: A case and literature review. Intern Med. 2024.
- 21) Kawabori M, Kuroda S, Shichinohe H, Kahata K, Shiratori S, Ikeda S, Harada T, Hirata K, Tha KK, Aragaki M, Terasaka S, Ito YM, Nishimoto N, Ohnishi S, Yabe I, Kudo K, Houkin K, Fujimura M: Intracerebral transplantation of MRI-trackable autologous bone marrow stromal cells for patients with subacute ischemic stroke. Med. 5, 432–444.e4, 2024.
- 22) Tang M, Sugiyama T, Takahari R, Sugimori H, Yoshimura T, Ogasawara K, Kudo K, Fujimura M: Assessment of changes in vessel area during needle manipulation in microvascular anastomosis using a deep learning-based semantic segmentation algorithm: A pilot study. Neurosurg Rev. 47, 200, 2024.
- 23) Kazui S, Takenaka S, Nagai T, Tsuneta S, Hirata K, Kato Y, Komoriyama H, Kobayashi Y, Takahashi A, Kamiya K, Temma T, Sato T, Tada A, Yasui Y, Nakai M, Sato T, Tsujino I, Kudo K, Konno S, Anzai T: Prognostic value of combined assessments of late gadolinium enhancement and fluorodeoxyglucose uptake in cardiac sarcoidosis. JACC Cardiovasc Imaging. 17, 710–712, 2024.
- 24) Hirano Y, Fujima N, Kameda H, Ishizaka K, Kwon J, Yoneyama M, Kudo K: High resolution TOF-MRA using compressed sensing-based deep learning image

reconstruction for the visualization of lenticulostriate arteries: A preliminary study. Magn Reson Med Sci. 2024.

- 25) Hirano Y, Ishizaka K, Sugimori H, Taniguchi Y, Amemiya T, Bito Y, Kudo K: Assessment of accuracy and repeatability of quantitative parameter mapping in MRI. Radiol Phys Technol. 2024.
- 26) Hirano Y, Ishizaka K, Sugimori H, Taniguchi Y, Amemiya T, Bito Y, Kudo K: Assessment of accuracy and repeatability of quantitative parameter mapping in MRI. Radiol Phys Technol. 17, 918-928, 2024.
- 27) Niizuma K, Nishimura N, Hasegawa K, Moritoyo T, Kudo K, Bell J, Wald M, Umeda Y, Kuribayashi K, Toda Y, Tominaga T, Hasumi K: Anti-inflammatory thrombolytic JX10 (TMS-007) in late presentation of acute ischemic stroke. Stroke. 55, 2786-2794, 2024.

和文原著論文

- 1) 亀田浩之, 小牧裕司, 安井正人, 工藤與亮: 動注モデルラットを用いた 170 標識水による脳血管水透過性の評価: 初期検討, 北海道放射線医学雑誌, 2024 年 3 月, 第 4 巻 P.1-6
- 2) 土橋 大樹, 平田 健司, 渡邊 史郎, 竹中 淳規, 若林 直人, 木村 理奈, 坂本 圭太, 工藤 與亮: 大規模言語モデルを用いた読影レポートからの情報抽出: ChatGPT3.5, ChatGPT4 および Google Bard の比較 Information Extraction from Radiology Reports Using Large Language Models: A Comparison of ChatGPT3.5, ChatGPT4, and Google Bard, 北海道放射線医学雑誌, 2024 年 3 月, 第 4 巻 P.7-12

英文総説

- 1) Kameda H, Kinota N, Kato D, Fujii T, Harada T, Komaki Y, Sugimori H, Onodera T, Tomiyasu M, Obata T, Kudo K: Magnetic resonance water tracer imaging using 17O-labeled water. Invest Radiol. 59, 92-103, 2024.
- 2) Hirata K, Watanabe S, Kitagawa Y, Kudo K: A review of hypoxia imaging using 18F-fluoromisonidazole positron emission tomography. Methods Mol Biol. 2755, 133-140, 2024.

和文総説

- 1) 池辺 洋平: 続 General Radiology 診断演習 “鳥の目”で診断する 画像診断, 44(10) 1087-1089, Aug, 2024
- 2) 岩田育子, 松島理明, 宇土仁木, 池辺洋平, 平田健司, 杉山拓, 森田真也, 渡邊裕, 向野雅彦, 中村昭伸: 大学病院における多診療科連携型軽度認知障害センターの構築 Dementia Japan 38(4) 2024
- 3) 池辺 洋平, 工藤 興亮: 【画像検査を使いこなす-放射線科医からの贈り物】(第 III 部)各疾患の画像診断 内分泌系 下垂体腫瘍 日本医師会雑誌, 153(特別 1) S208-S209, Jun, 2024

国際学会発表

- 1) Kudo K: The future of MR contrast media. 32nd ISMRM, Singapore, 2024.5.7
- 2) Kudo K: Qualitative Susceptibility Imaging. 32nd ISMRM, Singapore, 2024.5.9
- 3) Kudo K: Introduction of SNR2030. 62nd ASNR, Las Vegas, USA, 2024.5.20

国内学会発表

(一般演題)

- 1) 常田慧徳, 青野聡, 木村理奈, 権池勲, 藤間憲幸, 石坂欣也, 西岡典子, 米山正己, 加藤扶美, 箕輪和行, 工藤興亮: 心臓シネ画像の定量的容積評価に対する SmartSpeed AI の効果. 第 98 回日本心臓血管放射線研究会, 東京都, 2024.2.10.
- 2) 平田健司, 木村理奈, 唐明輝, 渡邊史郎, 竹中淳規, 若林直人, 杉森博行, 吉村高明, 工藤興亮: 全身 FDG-PET の Surface MIP アルゴリズムによる皮膚病変可視化を目指した条件検討. 第 1 回日本核医学会北海道支部会, 第 15 回日本核医学技術学会北海道地方会, 北海道 PET 研究会, (札幌市), 2024.5.18.
- 3) 竹中淳規, 平田健司, 渡邊史郎, 若林直人, 工藤興亮: 甲状腺癌に対する放射性ヨード内用療法前のヨード制限の成否に関する因子の検討. 第 1 回日本核医学会北海道支部会, 第 15 回日本核医学技術学会北海道地方会, 北海道 PET 研究会, (札幌市), 2024.5.18.
- 4) 若林直人, 渡邊史郎, 平田健司, 木村理奈, 竹中淳規, 石井宙史, 坂井亙, 南部敏和, 工藤興亮: 神経内分泌腫瘍に対する Lu-177DOTATATE 治療における In-111

Pentetreotide SPECT/CT の情報を利用した放射線治療病室への隔離期間の予測. 第 150 回日本医学放射線学会北日本地方会, 第 95 回日本核医学会北日本地方会, (札幌市), 2024. 6. 22.

- 5) 富樫伶衣, 木村理奈, 金谷本真, 上石崇史, 加藤大祐, 西岡典子, 常田慧徳, 吉川仁人, 坂本圭太, 吉河亨, 高橋練也, 清水智弘, 工藤興亮: 骨病変を契機に診断された Echinococcosis の 1 例. 第 150 回日本医学放射線学会北日本地方会, 第 95 回日本核医学会北日本地方会, (札幌市), 2024. 6. 22.
- 6) 古賀博人, 池辺洋平, 清水幸衣, 原田太以佑, 藤間憲幸, 亀田浩之, 加藤憲士郎, 大塚紀幸, 大野桜子, 外丸詩野, 山口秀, 工藤興亮: 異なる画像所見を呈した microcystic meningioma の 2 例. 第 150 回日本医学放射線学会北日本地方会, 第 95 回日本核医学会北日本地方会, (札幌市), 2024. 6. 22.
- 7) 橋本玲雄, 渡辺史郎, 平田健司, 竹中淳規, 木村理奈, 石井宙史, 工藤興亮: 脳転移を認めた甲状腺乳頭癌の一例. 第 150 回日本医学放射線学会北日本地方会, 第 95 回日本核医学会北日本地方会, (札幌市), 2024. 6. 22.
- 8) 池辺洋平: クイズで学ぶ! 死後画像診断, 第 37 回 JCR ミッドウインターセミナー, (宮城), 2024
- 9) 池辺洋平: 小児脳腫瘍, 第 28 回 MR 実践・先端講座, (オンライン), 2024.
- 10) 池辺洋平: 国内留学, 第 53 回神経放射線学会, (埼玉), 2024.

法歯学部門

実務実績（令和6年1月1日～令和6年12月31日）

死後歯科所見採取	179件
法医解剖時	41件
死体検案時	138件
その他の身元確認照合事例	1件
自衛隊歯科医官歯科身元確認訓練	4名
学外講義（医学科，歯科衛生士科）	4件

研究業績（2024.1～2024.12）

英文原著論文

- 1) Nakagawa J, Fujima N, Hirata K, Harada T, Wakabayasho N, Takano Y, Homma A, Kano S, Minowa K, Kudo K: Diagnosis of skull-base invasion by nasopharyngeal tumors on CT with a deep-learning approach. *jpn.j.radiol*, 2024 Jan. DOI: 10.1007/s11604-023-01527-7.
- 2) Kinota N, Kameda H, Xiawei B, Fujii T, Kato D, Takahashi B, Morita R, Abo D, Majima R, Ishii H, Minowa K, Kudo K: Blockage of CSF Outflow in Rats after Deep Cervical Lymph Node Ligation Observed Using Gd-based MR Imaging *Magn Reson Med Sci*. 2024;23(4):449-459.
- 3) Shimbashi S, Takeuchi A, Yoshimiya M, Jin S, Matoba K, Hyodoh H: Postmortem contrast-enhanced computed tomography via direct large-vessel puncture: *Leg Med*, 2024;69. 102448.
- 4) Takeuchi A, Jin S, Murakami M, Matoba K: Factors that hinder critical thinking and their resolution: Is active learning the key? *Pak J Med Sci*, 2024;40(6): 1313-1314.
- 5) Lee JW, Mizuno K, Watanabe H, Lee IH, Tsumita T, Hida K, Yawaka Y, Kitagawa Y, Hasebe A, Iimura T, Kong SW: Enhanced phagocytosis associated with multinucleated microglia via Pyk2 inhibition in an acute β -amyloid infusion model. *J Neuroinflammation*, 21(1):196, 2024.

- 6) Fujimoto H, Kimura-Kataoka K, Takeuchi A, Yoshimiya M, Kawakami R: Evaluation of age estimation using alveolar bone images. Forensic Sci.Int. 2024;27;364:11223.
- 7) Kato D, Kameda H, Kinota N, Fujii T, Xiawei B, Simi Z, Takai Y, Chau S, Miyasaka Y, Mashimo T, Abe Y, Yasui M, Minowa K, Kudo K: Loss of aquaporin-4 impairs cerebrospinal fluid solute clearance through cerebrospinal fluid drainage pathways Sci. Rep. 2024;14(1):27982.
- 8) Liu Y, Nishiura M, Fujii M, Sandhu S, Yawaka Y, Yamazaki Y, Hasebe A, Iimura T, Kong SW, Lee JW: Selective Pyk2 inhibition enhances bone restoration through SCARA5-mediated bone marrow remodeling in ovariectomized mice. Cell Commun Signal, 2024;22(1):561.
- 9) Suzuka M, Jin S, Takeuchi A, Murakami M, Takahashi K, Matoba K: Influence of blood thiosulfate produced by postmortem changes for the diagnosis of hydrogen sulfide poisoning in forensic autopsy. Asian Biomed. 2024; 18: 281-286.
- 10) Kinota N, Abo D, Morita R, Yamasaki K, Fujii T, Kato D, Kimura T, Sakuhara Y, Okada K, Yokota I, Orimo T, Kakisaka T, Nakamura T, Hirano S, Minowa K, Kudo K: Improvement of Hypoalbuminemia and Hepatic Reserve after Stent Placement for Postsurgical Portal Vein Stenosis. J. vasc. interv. Radiol, In Press Corrected Proof Published online: December 2024.

英文症例報告

- 1) Sawada M, Takasaki C, Tokura S, Yawaka Y: Oral findings in a patient with Alexander disease: case report. Pediatr Dent J, 2024;34(3),182-185.

和文原著論文

- 1) 鈴鹿正顕, 富田雅義, 中田明宏, 竹内明子, 箕輪和行: 頭頸部癌に対する放射線治療で使用したマウスピースの形の違いによる固定精度の評価, 北海道歯学会雑誌 2024;45;22-30.
- 2) 木内隆之, 神 繁樹, 的場智子, 竹内明子, 的場光太郎: 2,4-ジニトロフェノールの摂取により死亡した一剖検例. 法医学の実際と研究 2024; 67:131-135.

和文症例報告

- 1) 中村光一, 趙 継美, 八若保孝: 症候性全般てんかんの女兒にみられた原因不明の歯肉増殖により乳歯の萌出に障害をきたした症例 第1報, 障歯誌 2024;(4583):159-164.

和文著書

- 1) 箕輪和行: 歯科放射線学 第7版第1刷 MRI の原理, MRI の画像コントラストと画像診断, 医歯薬出版株式会社, pp171-178, 2024年3月
- 2) 八若保孝 (分担執筆): 4. 自閉スペクトラム症. 2 摂食機能療法を実施するための基本知識 3) 主な疾患 (原因分類) と病態. 公益財団法人日本障害者歯科学会監修診療ガイドライン作成員会 作成: 発達期障害児の摂食機能療法の手引き, 末永書店, 京都, 2024年5月. pp18.
- 3) 八若保孝 (分担執筆): G. 行動療法. 1 行動療法とは 7. 行動調整が必要な障害. 公益財団法人日本障害者歯科学会監修診療ガイドライン作成員会 作成: 発達期障害児の摂食機能療法の手引き, 末永書店, 京都, 2024年5月. pp14-17.
- 4) 八若保孝: 脱・不協力! 乳歯根治メソッド(DVD), 医療情報研究所, 奈良, 2024年5月.
- 5) 箕輪和行: 顎関節の画像診断 臨床医による MRI・CT 読影の手引き: 医歯薬出版株式会社, 第1版第1刷, 2024年9月.

学会シンポジウムの主催

- 1) 第15回北海道障害者歯科臨床研究会 北海道歯科医師会館(札幌市), (北海道大学大学院歯学研究院小児・障害者歯科学教室主催), 2024.11.16.

国際学会発表 (一般発演題)

- 1) Yawaka Y, Saito M, Oikawa T, Kitagawa E, Kamitsu S: Dental approach of the region with wide-area medical and dental care for the disabled persons. International Association for Disability & Oral Health (iADH) 2024, Mayfield Hotel, Seoul, Korea, 2024.9.26-29.
- 2) Takai R, Tamura F, Yawaka Y: Survey of outpatient and home-visit care for children with disabilities requiring advanced medical care. International Association for Disability & Oral Health (iADH) 2024, Mayfield Hotel, Seoul, Korea, 2024.9.26-29.

- 3) Iida A, Toyota Y, Hasebe A, Yawaka Y: Altered oral and gut microbiota in patients with autism spectrum disorder (ASD). International Association for Disability & Oral Health (iADH) 2024, Mayfield Hotel, Seoul, Korea, 2024.9.26-29.
- 4) Takasaki C, Yoshihara T, Yawaka Y: Synaptic expression of glutamate receptor GluD1 in the mouse somatosensory cortex. The 13th Biennial Congress of the Pediatric Dentistry Association of Asia, Eastin Grand Hotel Phayathai Bangkok, Bangkok, Thailand, 2024.10.30-11.1.

国内学会発表

(特別講演・シンポジウム等)

- 1) 箕輪和行, 山野 茂: エナメル上皮腫の画像診断と展望 第42回 日本口腔腫瘍学会 ワークショップ、札幌市中央区、2024.1.25-26.
- 2) 箕輪和行: 歯と顎骨・顎関節疾患 日本放射線科専門医会・医会 レクチャー , 会員限定オンラインコンテンツ , 2024.4.-.
- 3) 八若保孝: 教育講演 障がい児・者の行動調整 (改訂版)
第77回北海道歯科学術大会, 札幌パークホテル(札幌市), 2024.8.18.
- 4) 箕輪和行: 教育講演「口腔・顎・顔面領域の成長・発育に関する画像診断」, 頭頸部放射線研究会, 福岡市, 2024.10.19.

国内学会発表

(一般演題)

- 1) 澤田武蔵, 高崎千尋, 戸倉 聡, 八若保孝: オプトラゲートを使用し上唇小帯切除術を行った1例. 第62回日本小児歯科学会大会, 横須賀文化交流プラザ, メルキュールホテル横須賀(横須賀市)とWebのハイブリッド開催, 2024.5.
- 2) 鈴木翔斗, 高木康多, 中村光一, 八若保孝: 亜鉛ガラス含有ガラスアイオノマーセメントのエナメル質に対する効果. 第62回日本小児歯科学会大会, 横須賀文化交流プラザ, メルキュールホテル横須賀(横須賀市)とWebのハイブリッド開催, 2024.5.
- 3) 岩寺信喜, 加藤まゆこ, 西見光彦, 前田彩子, 岩寺 信喜 先生環司, 八若保孝: 1小児の口腔機能発達不全症への対応—口腔機能発達不全症に対し姿勢と咀嚼の指導を行なった1例. 第62回日本小児歯科学会大会, 横須賀文化交流プラザ, メルキュールホテル横須賀(横須賀市)とWebのハイブリッド開催, 2024.5.

- 4) 高濱 暁, 大島昇平, 八若保孝: 外傷により上顎乳前歯が破折した小児に対して保険と咬合挙上を試みた1例. 第62回日本小児歯科学会大会, 横須賀文化交流プラザ, メルキュールホテル横須賀(横須賀市)とWebのハイブリッド開催, 2024.5.
- 5) 澤口 萌, 大島昇平, 八若保孝: 治療に苦慮した Moebius 症候群の下口唇咬傷の1例. 第62回日本小児歯科学会大会, 横須賀文化交流プラザ, メルキュールホテル横須賀(横須賀市)とWebのハイブリッド開催, 2024.5.
- 6) 竹内 明子: 法医解剖事例における口腔内の歯周病菌 (P. g) の存在と動脈硬化の程度に関する検討, 第18回日本法歯科医学会学術大会, 大阪歯科大学(大阪市), 2024.5.
- 7) 志摩朋香, 西田睦, 山野茂, 竹内明子, 岩井七海, 堀江達則, 佐藤恵美, 工藤悠輔, 箕輪和行: 多様化する超音波診断技術 口腔内超音波の走査テクニック, 日本超音波医学会, パシフィコ横浜(横浜市), 2024.5.
- 8) 木内 隆之, 竹内 明子, 神 繁樹, 的場光太郎: 法医診断における NT-proBNP 検査の有用性についての検討, 第108回日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター(岡山市), 2024.6.
- 9) 神 繁樹, 的場光太郎, 木内隆之, 竹内明子: トルフェンピラド摂取で死亡した事例における薬物分析, 第108回日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター(岡山市), 2024.6.
- 10) 的場光太郎, 江口亜矢子, 神 繁樹, 竹内明子, 木内隆之: 溺死例におけるエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置を用いた体液中 Sr 及び Br 濃度の評価, 第108回日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター(岡山市), 2024.6.
- 11) 竹内 明子, 神 繁樹, 木内 隆之, 的場 光太郎: 致死的低体温症症例における死後肺 CT 画像所見の検討—輸液療法施行症例との比較—, 第108回日本法医学会学術全国集会, 岡山コンベンションセンター(岡山市), 2024.6.
- 12) 藤本 秀子, 木村 かおり, 竹内 明子, 吉宮 元応, 川上 竜司: AI を使用した歯槽骨と歯による個人識別法, 第7回日本歯科 AI 研究会, 仙台市, 2024.6.

- 13) 竹内 明子: 北海道大学における死体検案・法医解剖の現状と死因究明教育研究センター法歯学部門の取組み, 第20回警察歯科医会全国集会, かめ福オンプレイス(山口市), 2024. 8.
- 14) 趙 継美, 重田 馨, 中村光一, 長 祐子, 八若保孝: 口腔などにおける副作用の少ない小児がん血用の開発. 第42回日本小児歯科学会北日本地方会大会, 新潟県歯科医師会館(新潟市), 2024. 10.
- 15) 趙 継美, 重田 馨, 大島昇平, 長 祐子, 八若保孝: 周術期口腔管理の一環として全身麻酔下での歯科治療を行った小児がんの1例. 第43回日本小児歯科学会中四国地方会大会, 広島県歯科医師会館(広島市), 2024. 10.
- 16) 趙 継美, 重田 馨, 中村光一, 寺下友佳代, 平林真介, 長 祐子, 八若保孝, 真部 淳: 道内の小児がん患者における口腔管理の現状と、北海道大学病院における取り組み. 北海道小児がんコンソーシアム, 札幌北楡病院講堂(札幌市), 2024. 10.
- 17) 西浦まい, 渡辺陽久, 中西(木村) 徳子, 星(沼端) 麻里絵, 八若保孝, 飯村忠浩: 褐色細胞腫の分化誘導療法を基盤とした新規薬物療法の探索. 第66回歯科基礎医学会学術大会, 長崎大学医学部キャンパス(長崎市), 2024. 11.
- 18) 藤本秀子, 木村かおり, 竹内明子, 吉宮元応, 川上竜司: 人工知能を活用した顎口腔領域の個人識別法, 日本法医技術学会, 東京, 2024. 11.
- 19) 三浦真理, 星野 恵, 八若保孝: 多数歯先天性欠如児に対する早期介入の1例 第43回日本小児歯科学会近畿地方会大会, 神戸芸術センター(神戸市), 2024. 11.
- 20) 澤田武蔵, 詫間 滋, 飯田 彰, 神山 誉, 戸倉 聡, 今渡隆成, 小野智史, 八若保孝: 抜歯後感染を生じた脳挫傷後遺症患者に対する歯科訪問診療での口腔衛生管理経験. 第41回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 沖縄コンベンションセンター(宜野湾市), 2024. 12.
- 21) 石川佳恵, 梶美奈子, 本間将一, 巢山 達, 倉重圭史, 齊藤正人, 八若保孝: 患者性格と歯科治療の受容. 第41回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 沖縄コンベンションセンター(宜野湾市), 2024. 12.

22) 澤口 萌, 高井理人, 大島昇平, 八若保孝: 非経口摂取の重症心身障害者に対して全顎抜歯を行った1例. 第41回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 沖縄コンベンションセンター(宜野湾市), 2024.12.

23) 高濱 暁, 大島昇平, 八若保孝: 鼻腔内の結石が原因で歯性上顎洞炎と類似した症状を呈した1例. 第41回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 沖縄コンベンションセンター(宜野湾市), 2024.12.

その他の講演・セミナー

1) 箕輪和行: 教育講演「歯科放射線学概論、CT/MRI」, 北海道形成歯科研究会, 日本口腔インプラント学会認定講習会, 札幌, 2024.4.

2) 箕輪和行: 教育講演「歯科放射線学概論」, 帯広デンタルスタディークラブ, 教育講演, 帯広市, 2024.4.

3) 八若保孝: 障がい児・者への歯科的対応 ー行動調整(改訂版)を中心にー 令和6年度第2回愛知歯科医師会障がい者歯科医療普及講演会, 愛知歯科医師会館(名古屋市), 2024.8.

4) 八若保孝: 障害者歯科診療(演習) 愛知歯科医師会障がい者歯科医療実地研修, 愛知歯科医師会館(名古屋市), 2024.8.

5) 箕輪和行: 教育講演「歯科放射線学概論」, 帯広デンタルスタディークラブ, 教育講演, 帯広市, 2024.8.2.

6) 箕輪和行: 教育講演「TMJをより深く理解するための画像診断」, トップノッチ企画, 東京都渋谷区, 2024.9.

7) 箕輪和行: 教育講演「歯科放射線学」, 日本大学松戸歯学部, 松戸市, 2024.10.

8) 箕輪和行: 教育講演「歯科臨床画像診断」, 風の杜歯科, 学術研修, 札幌市, 2024.11.

9) 八若保孝: 障がい児・者の歯科治療. 令和6年度北海道障がい者歯科医療協力医制度実地研修, 函館歯科医師会館(函館市), 2024.11.

- 10) 八若保孝: 障がい児・者の歯科治療. 令和6年度北海道障がい者歯科医療協力医制度
実地研修, 北海道歯科医師会館(札幌市), 2024. 11.
- 11) 八若保孝: 障がい児・者の行動調整(改訂版) 北海道障がい者歯科医療協力医制度更新
研修, 十勝歯科医師会館(帯広市), 2024. 11.
- 12) 八若保孝: スペシャルレクチャー 小児の接着 なんかもズい. 1D 歯科セミナー,
Youtube, 2024年7月下旬～有料公開.
- 13) 八若保孝: スペシャルレクチャー 意外と知らない「水酸化カルシウム製剤の使い分
け」, 1D 歯科セミナー, Youtube, 2024年7月下旬～有料公開.

その他

- 1) Yawaka Y: one of panel of judges for “Curaprox Award” The 13th Biennial
Congress of the Pediatric Dentistry Association of Asia, Eastin Grand Hotel
Phayathai Bangkok, Bangkok, Thailand, 2024. 10. 30. -11. 1.

外部資金獲得

- 1) 箕輪和行(代表): 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「歯周病細菌の脳への移行トレ
ース」2022-2024.
- 2) 八若保孝(分担): 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「生活歯髄切断材料に対する抗
酸化アミノ酸の応用～強アルカリによる歯髄刺激からの脱却」2022-2024.
- 3) 竹内明子(分担): 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「深層学習による歯槽骨画像上
特徴点検出を用いた歯周病画像検査法の開発」2023-2025.
- 4) 八若保孝(代表): 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「複雑な乳歯根管系の制御―歯
根外部吸収部の再生」, 2024-2026.
- 5) 竹内明子(代表), 箕輪和行(分担), 的場光太郎(分担), 神 繁樹(分担): 文部科学省
科学研究費 基盤研究(C)「歯科的身元確認を支援する包括的歯科材料データベースの
構築- 災害時応用を目指して」, 2024-2026.

国際交流活動

- 1) 八若保孝: マヒドン大学歯学部長とダブルディグリーについての意見交換. マヒドン
大学歯学部長とダブルディグリーについての意見交換. ランシット大学歯学部長と

MOU 締結および学生交流についての意見交換. チュラロンコン大学歯学部長と学生交流に向けた意見交換, タイ, 2024. 3. 18-22.

- 2) 八若保孝: マヒドン大学歯学部およびランシット大学歯学部での北大歯学部学生の国際交流の引率および情報交換, タイ, 2024. 11. 2-9.
- 3) 八若保孝: タイ・ランシット大学歯学部学生の北大歯学部への短期留学のフォロー(研修スケジュール策定とセミナー、模型実習、窓口業務), 2024. 5. 20-24.
- 4) 八若保孝: タイ・チュラロンコン大学歯学部学生の北大歯学部への短期留学のフォロー(研修スケジュール策定とセミナー、模型実習、窓口業務など), 2024. 6. 3-7.

V. 參考資料

1. 当センターホームページに掲載した学外医療機関からの死亡時画像診断の読影業務に関する概要と Ai 読影申し込みフローチャート

概 要

医学研究院死因究明教育研究センターにおける 学外からの死亡時画像診断(Ai)の読影の受託について

本センターは知見を広く共有し地域への貢献に資するため学外医療機関からの死亡時画像診断(Autopsy imaging、以下「Ai」)の読影業務の受託を2018年2月1日より行っています。

【受託の目的】

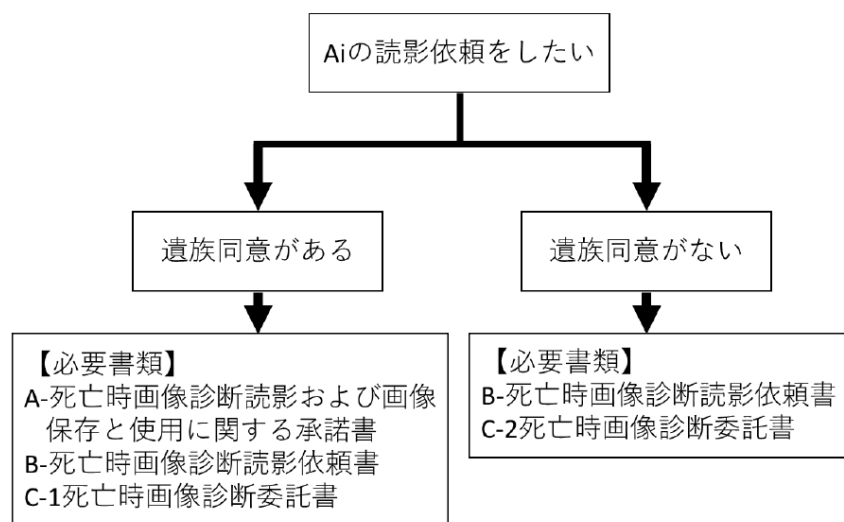
- 死後画像診断には死後変化と蘇生時変化など通常の画像診断とは異なる知識が必要です。センターで Ai の読影業務を受託することで、死後画像診断という学問の学部教育や大学院教育への充実化、人材育成を行います。
- 学外医療機関におかれましては、専門家のいる当センターに Ai の読影を委託することで、第三者の意見を聞くことができます。

【申し込み方法について】

- 受付時間: 電話:平日9:00~17:00 (メールは24時間受付)
- 申込方法: 下記の[メールアドレス](#)へ連絡を頂いた後、事務局からの指示に従って、下記の必要書類と診断料金を提出していただきます。
- 申 込 先: 画像診断学教室/死因究明研究教育センターAi部門
メール:shindan-jimu@med.hokudai.ac.jp
電 話 :011-706-7779
- 必要書類:
 - 死亡時画像診断 委託書/依頼書/承諾書
(必要書類は次項のフローチャート参照)
 - 画像データ(DICOM 規格)
- 診断料金: 1件につき 69,300 円 (税込)
- そ の 他: 読影の受託は医療機関のみから受け付けます。本センターで行うのは Ai の読影であり、Ai の撮影は各医療機関にてお願いいたします。レポートの返送まで2週間~1ヶ月程かかります。

Update 2020/3/XXX

【Ai 読影申し込みフローチャート】



【申込時の注意点】

- ✓ 遺族同意があるのかどうかを明示してください。
- ✓ 遺族同意がある場合と遺族同意がない場合で必要な書類が異なるため、ご確認の上必要書類の準備をお願いします。
- ✓ [B-死亡時画像診断読影依頼書]の医療事故に関連する項目には必ずチェックを入れてください。（*依頼の時点で医療事故かどうか調査中または不明の場合は、“関連あり”にチェックを入れ、変更が生じた際に事務局まで連絡をお願いします）
- ✓ 症例の経過がわかるように Ai 以外の過去画像も適宜データに含めてください。

Update 2020/3/XXX

